



January 2023
NHK Symphony Orchestra, Tokyo

感染症予防対策についての取り組み

みなさまに安心して演奏をお楽しみいただけるように、以下の感染症予防対策について、ご理解・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

- 会場内では、必ずマスクを正しく常時着用し、手洗い、手指の消毒、咳エチケットにご協力ください。
- 感染予防のため休憩中も含め、客席内ではご自身のお座席以外への着席はご遠慮ください。
- 入退場時および会場内では、まわりの方々との距離を確保した上で行動くださいますよう、ご協力をお願いいたします。また、混雑緩和のために入退場時に、制限をさせていただく場合がありますので、あらかじめご了承ください。
- プログラムは所定の場所からお客様ご自身でお持ちください。
- 政府や自治体によるイベント開催要件に変更があった場合は、チケット販売の一時停止や入場者数上限の設定等を行います。
- ロビー等では大きな声での歓談はお控えください。
- 「ブラボー」等の掛け声はお控えください。
- サイン会は実施しません。また、楽屋口での出演者の入待ち・出待ちはお断りいたします。また出演者への面会もお断りいたします。
- 万が一、ご来場のみなさまの中から新型コロナウイルス感染者が発生した場合には、保健所など公的機関へチケット購入時にいただいたお客様の情報を提供する場合がございます。またその場合、複数枚をご購入いただいた方には、同伴者など、当日ご来場いただいた方の連絡先をお伺いいたします。あらかじめご承知おきください。
- 喫茶コーナーは会場により、営業縮小もしくは休止している場合があります。
- 会場内でのお食事はお控えください。また持ち込みもご遠慮ください。
- ブランケット等の貸し出しサービスは休止いたします。必要に応じて、防寒の備えをお勧めいたします。
- 会場内のドアノブや座席の手すりなどはあらかじめ消毒を実施します。
- 会場内の常時換気、開場中および休憩中の客席扉の開放など空気の入替えに努めます。
- スタッフもマスクの着用やこまめな手指の消毒等、ご来場のみなさまと同様に感染予防の対策を行います。

お客様へのお願い



公演中は携帯電話、時計のアラーム等は必ずお切りください



演奏は最後の余韻までお楽しみください



会場での録画、録音、写真撮影は固くお断りいたします（終演時のカーテンコールをのぞく）



私語、パンフレットをめくる音など、物音が出ないように配慮ください



演奏中の入退場はご遠慮ください



補聴器が正しく装着されているかご確認ください



終演時のカーテンコールを撮影していただけます

コンサート終演時、舞台上のカーテンコールをスマートフォンやコンパクトデジタルカメラなどで撮影していただけます。SNSでシェアする際には、ハッシュタグ「#N響」「#nhkso」の追加をぜひお願いいたします。ほかのお客様の映り込みにはご注意ください。撮影前にスマートフォンのフラッシュ設定が「オフ」になっているかご確認ください。

※撮影はご自身からとし、手を高く上げる、望遠レンズや三脚を使用するなど、周囲のお客様の迷惑となるような行為はお控えください



スマートフォンのフラッシュを「オフ」にする方法例

PHILHARMONY

CONTENTS

JANUARY 2023

1

3 第2000回定期公演 曲目ファン投票 結果発表

7 [公演プログラム] Aプログラム

11 [公演プログラム] Bプログラム

16 [公演プログラム] Cプログラム

19 [シリーズ] N響百年史 | 第34回 | ケーニヒ去りてシフェルブラット来たる

片山杜秀

25 2023年2月定期公演のプログラムについて

——公演企画担当者から

27 チケットのご案内

28 2022-23定期公演プログラム

30 2023-24定期公演予定(日程・指揮者)

31 各地の公演

34 特別支援・特別協力・賛助会員

38 NHK交響楽団メンバー

39 曲目解説執筆者／お詫びと訂正

40 みなさまの声をお聞かせください!

41 NHK SYMPHONY ORCHESTRA, TOKYO
Members

[Artist Profiles & Program Notes]

42 Program A

45 Program B

48 Program C

50 The Subscription Concerts Program 2022-23

52 The Subscription Concerts Program 2023-24

53 役員等・団友

インターネットアンケートに ご協力ください

N響では、今後のよりよい公演の実現に向けて、インターネットでアンケートを行っています。ご鑑賞いただいた公演のご感想や、N響の活動に対するみなさまのご意見を、ぜひお寄せください。ご協力をお願いいたします。

詳しくは40ページをご覧ください



こちらのQRコードから
アンケートページへアクセスできます



<https://www.nhkso.or.jp/enquete.html>

Special Thanks




NHK SYMPHONY ORCHESTRA T O K Y O

特別支援

岩谷産業株式会社

 三菱地所株式会社

 みずほ銀行

公益財団法人 渋谷育英会

With Special Support of

Iwatani Corporation

Mitsubishi Estate Co., Ltd.

Mizuho Bank, Ltd.

Shibuya Scholarship Foundation

NHK交響楽団は上記の各社から特別支援をいただいております。

2020年2月、ウィーン・コンツェルトハウスにて
©Lukas Beck

第2000回定期の曲目は

マーラー《交響曲第8番「一千人の交響曲」》に!

曲目ファン投票 結果発表

2023年12月16日(土)、17日(日)に開催される「NHK交響楽団 第2000回定期公演」(指揮:ファビオ・ルイーゼ/N響首席指揮者)の曲目を決めるファン投票の集計がまとまり、同公演でマーラー《交響曲第8番「一千人の交響曲」》を演奏することが決まりました。

今回の投票は、2022年6月から10月末にかけて、フランツ・シュミット《オラトリオ「7つの封印の書」》、マーラー《交響曲第8番「一千人の交響曲」》、そしてシューマン《オラトリオ「楽園とペリ」》の3作品を候補に行われ、総計2523もの投票をいただきました。まことにありがとうございます。

NHK交響楽団 第2000回定期公演 曲目ファン投票 結果

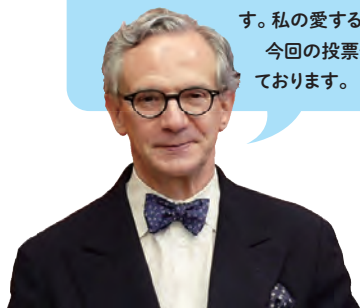
第1位	マーラー／交響曲 第8番 変ホ長調「一千人の交響曲」	1367票
第2位	フランツ・シュミット／オラトリオ「7つの封印の書」	722票
第3位	シューマン／オラトリオ「楽園とペリ」作品50	434票

ファビオ・ルイーゼ、 第2000回定期公演 曲目決定への思いを語る

第2000回定期公演の演奏曲をN響ファンのみなさまに選んでいただきたかったので、この投票結果にたいへん満足しています。私たちが聴衆のみなさまを大切に思い、敬意を示す意思表示なのですから。大勢の方からの投票があったと聞いて、とてもうれしく思っています。

過半数の人々がマーラーの《交響曲第8番》を聴きたいと希望したそうですね。実は、私はそのように予想していました。私たちが提案した候補の3曲の中で最も人気がありますからね。楽曲構成は2部のみですが、大曲であるうえに、マーラーが万物を解き明かそうとした交響曲です。そして、非常に大きな編成のオーケストラ、2つの合唱、児童合唱、多くの独唱者を要します。合唱つき交響曲のなかで最も優れた技術と手立てを必要とする作品ということができるでしょう。大勢の演奏者を見つける困難のために上演がまれな作品ですから、この交響曲を演奏できる絶好の機会になります。そのような理由で、この結果に私はとても満足しています。私の愛する一曲でもあり、私自身の提案でもあったのです。

今回の投票企画は、N響ファンのみなさまにも喜んでいただけたであろうと、私は確信しております。



みなさまから寄せられた「投票理由」

マーラー／交響曲 第8番 変ホ長調「一千人の交響曲」

■演奏にはかなりの人数が必要なので、新型コロナウイルスに人類が勝利しないと出来ない曲。記念すべき2000回に加え、コロナ収束を同時に祝うには相応しいと思うから。(鈴木祥太)

■個人的にマーラーが大好きで、過去にN響が演奏した《一千人の交響曲》は聴きに行きたかったが地方に住んでいたの、叶いませんでした。N響の演奏で《一千人の交響曲》を聴くことがひとつの夢です。(どん)

■2024年に高校受験を控えているので、《一千人の交響曲》を聴いて、千人から応援された気分で受験に臨みたいから。(Leny)

■マーラーの音楽の中で一番好きです。最後の「神秘的合唱」は最高です。何人も努力し続ければ報われるメッセージがあると思います。(グランドリバー)

■マーラーの《一千人の交響曲》は、マーラー作品集大成にして平和への壮大な讃歌。混沌とした世の中ですが、2000回定期公演という金字塔を打ち立てるN響の集大成と、コロナ禍からの解放を象徴できる名演を観れると思い選びました。(N響大好きKent)

■第1000回の定期はメンデルスゾーンの《エア》でしたね。私は当時高校生で、お小遣いを貯めて買ったラジカセで録音して、何回も聴きました。次の2000回なんて遠い未来の話。なんて思っていたらついに来た(笑)ここは知っている曲で、壮大にマーラーでいきましょう!(鍛冶本建二)

■悩みに悩みましたがやはり、ファビオ・ルイジさんとN響のコラボでマーラーの《交響曲第8番》をどうしても聴きたいです! 首席指揮者着任前のマーラー《交響曲第1番》の時、NHKホール全体に溢れた物凄い熱気は今も忘れられません。(ふらじお)

フランツ・シュミット／オラトリオ「7つの封印の書」

■せっかくの節目の演奏会では、ほとんど演奏されることのない大曲を演奏してほしいから。また、マエストロ・ルイジの得意とされているフランツ・シュミットをぜひ実演で聞いてみたいと思ったから。(k.taka_richard)

■先行き不透明な混沌とした時代である今こそ演奏すべき曲だと思う(太田敦也)

■なかなか聴くことのない名曲で、まだN響でやっていないということで、N響の新しい響きを体験したい。(城谷 伶)

■他の2曲はこれまでかなりの回数が演奏されてきましたが、《7つの封印の書》は演奏機会が限られていて日本の

演奏史を彩るこうした機会に一番相応しいと考えます。確かマエストロ・ザヴァリッシュが演奏を望んでいた記憶があります。(千葉尚邦)

■地上の争いが最後に滅し浄められ、ハレルヤのコーラスが神の王国を祝福するという展開が、コロナ禍や絶えないう紛争に見舞われる世界に希望を示すものとなると思う。(いとこねこ)

■1983年12月、この曲を合唱団の一員として歌いました。以来、この曲の描く壮大な世界をライブで聴く機会を待ち望んでおりました。ウィーンに出かけようとも思いましたが、今回この投票で《7つの封印の書》が選ばれ40年来の念願が叶うことを祈念しております。(bjlm)

シューマン／オラトリオ「楽園とペリ」作品50

■あまり実演されませんが、シューマンのオペラというべき華やかで素晴らしい曲と思います。(横尾 順)

■弦リングスのメロディーラインが流れるようで心地よく、生演奏で聴きたいものが候補の中でこれが一番だったから。上品な雰囲気漂うルイーゼ氏にぜひ振ってほしいです。(さいほん)

■罪を犯した結果追放され、様々なところを渡り歩いて許しを得たというストーリーが、現代人と重なるのではと思いました。様々な罪を犯し、迷いながら生きている今の人々が貴団の奏でるシューマンによって、気持ち新たにまた新しい良き時代を歩んで行けたらと思います。(Ryoko)

■N響とルイーゼさん共通の恩師、サヴァリッシュさんが愛したシューマンの秘曲を是非生で聴きたいです。(菅原 修)

■初めてN響の定期公演を聴いた時の指揮者がサヴァリッシュさんでした。その端正で無駄のない指揮を目の当たりにして、「かっこいいなあ」と思ったのを覚えています。それ以来、N響といえばサヴァリッシュと思うようになりました。新首席指揮者のルイーゼ氏はどことなくサヴァリッシュ氏を思い起こさせるところがあるように感じます。この3曲の中でもしサヴァリッシュ氏が振るとしたらどれだろうと考えることやシューマンではないかと思いました。(松下脩司)

第2000回定期公演を迎えるN響、そして指揮を務めるファビオ・ルイーゼへ寄せられたみなさまの声

■コンサート指揮者の多いN響指揮者陣の中で、サヴァリッシュさん、スウィトナーさん以来のオペラ指揮者でもあるので、声楽の入った選曲をこれからも期待しています。特にモーツァルトのイタリア語の入った曲の流れるような曲調はイタリア人指揮者ならではの期待しています。(Quartet in Q)

■ルイーゼさんのフレーズを大事にする素晴らしい演奏を楽しんでいます。これからN響のサウンドがどう変化していくか楽しみです。(米澤文彦)

■2000回目の定期公演おめでとうございます。遠方に住んでいる、経済的に余裕がない、健康上の理由など、なかなか直接聴きに行くことが難しい人にとっても、テレビやラジオや配信等を通じて良質なクラシック音楽を届けてくださるN響には、いつも感謝しています。新たな指揮者を迎えられてのシーズン。これからも素晴らしい演奏の数々を楽しみにしています。(H.M.)

■コロナ禍の影響で演奏会が中止されるなどの受難を乗り越え、N響の演奏が一段と遅^{たご}くなったように感じています。ルイーゼ氏の指揮のもと、N響がさらに遅さを増し、聴衆にさらに大きな感動を与えてほしいと思います。これからも、応援しています。(河村秀俊)

■母の胎内にいた時からききとN響の演奏を聴いてきたと思いますが、N響はいつでも私の音楽の窓です。これからもたくさんのレパートリー、指揮者、ソリスト、表現をN響を通じて知ることができることを楽しみにしています。(真貝美緒)

■芸術というのは、どれだけ絶望的な状況の中であっても「それでも世界は美しいのだ」と言い切ってしまう役割を持っていると思います。幾重にも分断された現在の世界情勢の中でも、演奏を止めなかったN響の方々に感謝しています。どうかこれからも、素晴らしい演奏を続けて頂けるよう願っています。(中山浩之)

1910年に開催された「ミュンヘン博覧会」の目玉企画として作曲された《交響曲第8番》。オーケストラ171人、声楽858人、まさに「千人」を超える規模で初演され、「マーラーは名声の頂点に立った」と言わしめるほどの爆発的な成功を収めました。第1部・ラテン語の賛歌「来たれ、創造主である聖霊よ」（おもに聖霊降臨祭の際に歌われる）、そして第2部・ゲーテ『ファウスト』の最終場面。「永遠に女性的なるもの」が世界を祝福するフィナーレは圧巻です。[広瀬大介]

「**マーラー** **交響曲第8番 変ホ長調** **千人の交響曲**」



グスタフ・マーラー



1910年9月、初演に向けてのリハーサル風景（ミュンヘン、新音楽祝祭堂にて）

A

12/16 土
6:00pm

12/17 日
2:00pm

NHKホール

第2000回定期

マーラー／交響曲 第8番 変ホ長調

「千人の交響曲」

指揮：ファビオ・ルイージ

© 2023 NHK

※公演出演者の詳細については、2023年1月に「2023-24シーズンNHK交響楽団定期公演ラインアップ」とあわせて発表いたします。
※N響首席指揮者ファビオ・ルイージからのメッセージ動画などはN響ホームページでもご覧いただけます。

PROGRAM

A

第1974回

NHKホール

1/14 [土] 6:00pm

1/15 [日] 2:00pm

指揮 トウガン・ソヒエフ

ピアノ ハオチェン・チャン

コンサートマスター 篠崎史紀

ブラームス

ピアノ協奏曲 第2番 変口長調 作品83
[47']

- I アレグロ・ノン・トロッポ
- II アレグロ・アパッショナート
- III アンダンテ
- IV アレグレット・グラチオーソ

— 休憩 (20分) —

ベートーヴェン

交響曲 第4番 変口長調 作品60 [38']

- I アダージェー・アレグロ・ヴィヴァーチェ
- II アダージェ
- III アレグロ・ヴィヴァーチェー・ウン・ポー・コ・メノ・アレグロ
- IV アレグロ・マ・ノン・トロッポ

※演奏時間は目安です。

インターネットアンケートにご協力ください

N響では、今後のよりよい公演の実現に向けて、インターネットでアンケートを行っています。みなさまの貴重なご意見を参考にさせていただきます。ぜひお声をお寄せください。ご協力お願いいたします。

詳しくは40ページをご覧ください



こちらのQRコードから
アンケートページへアクセスできます



<https://www.nhkso.or.jp/enquete.html>

Artist Profiles

トゥガン・ソヒエフ(指揮)



© Marco Bagnarelli

ロシアのウクライナ侵攻後、トゥガン・ソヒエフは、2008年から音楽監督を務めていたトゥールーズ・キャピトル管弦楽団の役職と2014年に就任したモスクワのポリショイ劇場の音楽監督兼首席指揮者の座を自らの意思で退いた。

1977年、旧ソビエト連邦・北オセチアのウラジカフカスで生まれたソヒエフは、サンクトペテルブルク音楽院で伝説的な名教師ムーシンとテミルカーノフに指揮法を師事。1999年にプロコフィエフ国際コンクール指揮部門で最高位(第1位なしの第2位)を得て注目を集め、マリンスキー劇場での仕事を通じてゲルギエフの薫陶も受けている。コンサートとオペラの両分野で活躍し、ロシアの作品ではインパクトに富んだアプローチを繰り広げ、フランス音楽の指揮ぶりにも定評がある。また、2012年から2016年まで音楽監督兼首席指揮者を務めたベルリン・ドイツ交響楽団では、ドイツ系の作品でオーケストラを重厚に響かせるなど、40代半ばでありながら、多彩なひきだしを備えたマエストロである。

N響とは、2008年10月に初めて共演、2013年11月定期公演に初登場。以来、たびたび共演を重ねており、ロシア音楽だけでなく、ドイツ音楽、フランス音楽、さらには武満徹を取り上げている。近年、息の合ったコンビネーションを発揮しているだけに、今回の共演にも大いに期待したい。

[満津岡信育／音楽評論家]

ハオチェン・チャン(ピアノ)



© Benjamin Edelberg

ハオチェン・チャンは中国出身の俊英ピアニスト。1990年に上海で生まれ、上海音楽院小学校から深圳芸術大学に進んで但昭義に学んだ。2005年からフィラデルフィアのカーティス音楽院で名教授ゲイリー・グラフマンに師事。2009年、第13回ヴァン・クライバーン国際コンクールで辻井伸行とともに第1位を得て、同コンクール史上の最年少優勝者となった。以来、母国はもとより、ロリン・マゼール指揮ミュンヘン・フィルハーモニー管弦楽団との共演、BBCプロムスへの出演を含めて、欧米でも目覚ましく活躍している。来日の機会も多く、2017年にリサイタル・ツアーを行い、2019年にはヤニック・ネゼ・セガン指揮フィラデルフィア管弦楽団とラフマニノフの《ピアノ協奏曲第2番》を共演している。技巧に自信のある若手らしく、リストやプロコフィエフを得意としつつ、プログラミングには多面的な知性を窺^{うかが}わせ、愛着をみせるシューマン、ブラームス、ヤナーチェクのCD録音もある。2022年1月の来日はパンデミックのために叶わず、今回晴れてN響と初共演。トゥガン・ソヒエフの指揮のもと、ブラームスの難曲《ピアノ協奏曲第2番》でその真価を問う。

[青澤隆明／音楽評論家]

ルートヴィヒ・ファン・ベートーヴェン(1770~1827)とヨハネス・ブラームス(1833~1897)。ともにウィーンを後半生の本拠地に定め、眉を寄せて深刻な作品を数多く書いたイメージが強い。そうしたなかで、今回取り上げられる曲は、変ロ長調を基調に穏やかさや愛らしさを湛え、彼らの曲としては例外的存在と見なされることが多いが、果たしてどうか。闇ゆえに輝く光、光のなかに蠢く闇が作品の核心にあるとしたら……。

ブラームス

ピアノ協奏曲 第2番 変ロ長調 作品83

生前はピアノの名手としても名を馳せたブラームスは、2曲のピアノ協奏曲を残しているが、両者は対照的な性格を帯びていると言われることが多い。青春の激情や苦渋を色濃く湛えるとともに、いかなる手段や方法を用いて自らの世界を表現するかという苦心惨憺が刻まれた《第1番》。その22年後に書かれた本作は、功成り名遂げた彼が、風光明媚なイタリアに初めて旅行をするなかで着想を得ただけのことはあって、全体的には穏やかで平和な雰囲気支配的だ。第1楽章冒頭、「角笛」を思わせるホルンの旋律によって、ピアノが中低音でしみじみと分散和音を奏でる箇所からも、それはよくわかる。

ところが、ピアノの独奏部分がひとまず終わり、オーケストラの部分に入ると、徐々に苦渋や苦悩を色濃く宿した楽想が入り込む。「タタタター」というブラームス……あるいは彼が崇拝していたベートーヴェンにお馴染みの、「運命の動機」も威嚇的に鳴らされる。それが極まるのが第2楽章だ。この楽章は急速な3拍子を基本とするスケルツォの形式で書かれているが、「スケルツォ」の元々の意味が「冗談」だとすると、冗談どころではない苦しみと情熱に溢れている。ようやく安らぎが主流になってくるのが、緩やかなテンポを基調とする第3楽章。ピアノではなく、チェロ独奏がメロディを先導する異例の幕開けだが、ここでも奥底に深い痛みを秘めた楽想が随処に聴かれる。長調かと思えばそこに短調が忍び込む、複雑な表現方法の賜物にほかならない。第4楽章のラプソディックな明るさも、どこか屈託を抱えているのが特徴だ。

なお当作品、全曲演奏におよそ50分を要することからも分かるように、交響曲のそれに匹敵するスケールだ。スケルツォを協奏曲に採り入れ、全体を交響曲のごとく4楽章形式に仕立て上げるのも、当時としては実験的な試みだった(なおこれは、「保守派」のブラームスと対極の存在といわれた「革新派」のリスト[1811~1886]が、自らのピアノ協奏曲ですでに実践している)。また、《ピアノ協奏曲第1番》にも聴かれるような、ピアノ独奏とオーケストラとがこれ以上ないほど濃密に絡まり合う交響的協奏曲とも呼べる内容が、本作ではさらに推進されている。明るさ一辺倒では測りきれない音楽の深淵。それを象徴する1曲である。

作曲年代	1878～1881年
初演	1881年11月9日、パスティ・ヴェガード(ブダペスト)、作曲家独奏、アレクザンダー・エルケル指揮、ブダペスト・フィルハーモニー管弦楽団
楽器編成	フルート2(ピッコロ1)、オーボエ2、クラリネット2、ファゴット2、ホルン4、トランペット2、ティンパニ1、弦楽、ピアノ・ソロ

ベートーヴェン

交響曲 第4番 変ロ長調 作品60

「2人の北欧の巨人(筆者注:《交響曲第3番「英雄」》と《交響曲第5番「運命」》)に挟まれたギリシアの乙女」。音楽評論家でもあったシューマン(1810～1856)がこう述べたことから、ベートーヴェンの交響曲のなかでは、軽く明るい作品と見なされることが多い。

ところが、たとえば第1楽章の序奏部はどうだろう。変ロ短調で始まる冒頭部分は、ひっきりなしに調性が変わり、暗い不安感が蠢く。しかもその緊張感が限界点に達し、爆発したところで、一転して眩い主部に入るという仕掛け。つまり、軽さや明るさなどとは無縁の幕開けである。それもそのはずで、この作品が書かれたのは、1806年から1807年にかけて。つまりベートーヴェンの耳の病が徐々に進行し、さらにナポレオン(1769～1821)率いるフランス軍が1805年にウィーンを軍事占領した記憶も生々しい状況のなかだった。にもかかわらず、いやそうであるがゆえに、この上ない緊張感を背後に抱えたベートーヴェンの創作意欲は増し、次々と傑作を世に送り出していった。

このように考えると、《交響曲第4番》を特徴づける一気呵成ともいえるエネルギーも納得できる。先ほども書いたように、第1楽章序奏に満ち満ちる、とてつもない闇をバネとして、疾走感に溢れる主部が続く。おどけた音色のファゴットが超絶技巧のパスセージを要所要所で奏でるのも聴きどころ(第4楽章にもこの手法が現れる)。緩徐楽章にあたる第2楽章は、冒頭で示される符点リズムが楽章全体に張り巡らされ、その上に優しい歌が奏でられるものの、どこか翳りを帯びているのが特徴だ。

第3楽章は、スケルツォを基本としており、シンコペーションやヘミオラなど、スケルツォの特徴である3拍子をあえて随所で崩すようなリズム感が特徴だ。そして16分音符による急速なメロディが上行と下行を熱狂的に続ける第4楽章……。

つまりこの交響曲は、けっしてたおやかな優しい作品ではない。闇が厳然と存在するがゆえの光の世界への希求が、この曲のすべてを貫いている。

作曲年代	1806年頃～1807年
初演	[公開初演] 1807年11月15日、ブルク劇場(ウィーン)、作曲家自身の指揮、ブルク劇場付属管弦楽団
楽器編成	フルート1、オーボエ2、クラリネット2、ファゴット2、ホルン2、トランペット2、ティンパニ1、弦楽

B

第1976回

サントリーホール

1/25 水 7:00pm

1/26 木 7:00pm

指揮	トウガン・ソヒエフ プロフィールはp. 8
ヴィオラ	アミハイ・グロス
コンサートマスター	白井 圭

バルトーク

ヴィオラ協奏曲(シェリイ版) [20']

- I モデラート
- II アダージョ・レリジオーソ
- III アレグロ・ヴィヴァーチェ

— 休憩(20分) —

ラヴェル

「ダフニスとクロエ」組曲

第1番 [12']

- I 夜想曲
- II 間奏曲
- III 戦いの踊り

第2番 [18']

- I 夜明け
- II 無言劇
- III 全員の踊り

ドビュッシー

交響詩「海」 [25']

- I 海の夜明けから真昼まで
- II 波の戯れ
- III 風と海との対話

※演奏時間は目安です。

インターネットアンケートにご協力ください

N響では、今後のよりよい公演の実現に向けて、インターネットでアンケートを行っています。みなさまの貴重なご意見を参考にさせていただきます。ご協力をお願いいたします。

詳しくは40ページをご覧ください



こちらのQRコードから
アンケートページへアクセスできます



<https://www.nhks.or.jp/enquete.html>

アミハイ・グロス(ヴィオラ)



1979年、イスラエルのエルサレム生まれ。5歳からヴァイオリンを学び、11歳でヴィオラに転向した。エルサレムでデーヴィッド・チェンに、その後、フランクフルトとベルリンでタベア・ツィンマーマンに師事した。1995年、仲間たちとともにエルサレム弦楽四重奏団を創設。国際的な活躍を展開し、チューリヒのトーンハレ、ロンドンのウィグモア・ホール、アムステルダム・コンセルトヘボウなどの主要ホールで公演を行い、レコーディング活動ではBBCミュージック・マガジン室内楽賞やエコー・クラシック賞を受賞した。

2010年よりベルリン・フィルハーモニー管弦楽団の第1首席ヴィオラ奏者に就任し、オーケストラ奏者として新たなキャリアをスタートさせた。また近年はソリストとしての活動にも力を入れており、ダニエル・バレンボイム指揮ウエスト・イースタン・ディヴァン管弦楽団などの著名楽団と共演している。N響とは今回が初共演。バルトークの《ヴィオラ協奏曲》で、独奏楽器としてのヴィオラの魅力を存分に伝えてくれることだろう。使用楽器は1570年製のガスパーロ・ダ・サロ。

[飯尾洋一／音楽ジャーナリスト]

Program Notes | 太田峰夫

ひとつひとつの旋律や伴奏を、どの楽器に振りわけるか。オーケストレーション(管弦楽化)は創作の最終段階であると同時に、個性を発揮する大きなチャンスでもある。

本日のプログラムは互いに関係の深い3人の作曲家の音楽からなるが、オーケストレーションの点では、簡素なものから非常に入念なものまで、じつに対照的な作品が並んでいる。通して聴けば、オーケストレーションの技法が持つ豊かな可能性をあらためて実感できるだろう。

バルトーク

ヴィオラ協奏曲(シェリイ版)

ベーラ・バルトーク(1881~1945)がウィリアム・プリムローズからの依頼でヴィオラ協奏曲を書くことを決めたのは、1945年1月のことだった。健康上の理由でなかなか着手できなかったものの、7月に入り、《ピアノ協奏曲第3番》の作曲が予想外にはかどったため、新作に取りかかることを決めたようだ。9月8日、ニューヨークに戻った彼ははやくも依頼者に、以下のように報告している。

「草稿が出来上がったことをお知らせできるのが、とてもうれしいです。あとは総譜だ

け書かねばなりません、それはいわば純粋に機械的な作業となるでしょう。

総譜は「5～6週間のうちに」届けられるはずだった。ところが持病の白血病が悪化し、バルトークは9月26日に帰らぬ人となってしまふ。現在「シェルイ版」として知られる《ヴィオラ協奏曲》は、残された草稿をもとに友人のティボル・シェルイが作成した、補作の産物にほかならない。

バルトークが残した草稿は現在、ファクシミリ版で確認できる。そこからわかるのは、独奏パートがほとんど出来上がっていたのに対し、伴奏パートは2段ないし1段の五線譜に書かれていたにすぎず、しかも省略が多い、ということだ。第三者にとって、総譜の完成がけっして「純粋に機械的な作業」ではなかったことは明らかだが、シェルイはあえてこの課題に挑んだ。彼の解釈は全体として抑制的だったが、加筆が必要と判断した場所（第2楽章中間部）については既存のバルトークの作品（《弦楽四重奏曲第5番》第4楽章後半）を参考にするなど、創意工夫を發揮することもあった。解釈の正統性に関しては今日、いろいろな問題点が指摘されているが、シェルイが故人との共同作業を通じて、結果的にヴィオラのレパートリーに貴重な貢献をしたことは間違いないだろう。

第1楽章はモデラート、4分の4拍子、ハ調—レント・パルランド、4分の4拍子、変ホ調。ソナタ形式。擬似民謡風の冒頭主題はこのあと、第1楽章、第2楽章の終わりですれぞれ回想される。レント部分は第2楽章への序奏を兼ねている。第2楽章はアダージョ・レリジョーソ、4分の4拍子、ホ調—アレグレット、4分の2拍子、変ホ調。アダージョは3部構成。独奏ヴィオラの長いソロのあと、次の楽章に向けた序奏がはじまる。第3楽章はアレグロ・ヴィヴァーチェ、4分の2拍子、イ調。自由なロンド形式。中間部のバグパイプ風エピソードは、プリムローズがスコットランド出身であることを意識したもののだろう。

作曲年代	1945年7～9月
初演	1949年12月2日、ミネアポリス・ノースロップ記念講堂、ミネアポリス交響楽団、ウィリアム・プリムローズ独奏、アンタル・ドラティ指揮
楽器編成	フルート2、ピッコロ1、オーボエ2、クラリネット2、ファゴット2、ホルン3、トランペット3、トロンボーン2、チューバ1、ティンパニ1、大太鼓、小太鼓、サスペンデッド・シンバル、弦楽、ヴィオラ・ソロ

ラヴェル

「ダフニスとクロエ」組曲 第1番、第2番

モーリス・ラヴェル(1875～1937)がバレエ・リュス(ロシア・バレエ団)の興行主セルゲイ・ディアギレフからバレエ曲の依頼を受けたのは、1909年のことだった。題材は『ダフニスとクロエ』。2世紀の詩人ロンゴスによる古代ギリシャ語の田園詩である。台本を作成した振付師ミハイル・フォーキンは「アッティカの壺つぼに赤や黒で描かれている古代の踊りのかたちのイメージを取り戻し、それを力強く表現する」ことを望んだ。対照的にラヴェル

は、この題材によるフランス絵画からの連想で、「18世紀末のフランスの画家達が想像を駆使して描いたもの」に似通った「巨大なフレスコ画」を作ることを意図したという。

言葉の壁もあり、フォーキンとの調整には長い時間を要した。さらにラヴェル自身も忙しかったことから、初演は何度も延期せざるをえなかった。その結果、稽古の時間が十分にとれず、1912年6月8日のバレエ世界初演は今ひとつ盛り上がらなかったようだ。その一方、ラヴェルがつくった音楽自体は近代フランス音楽の到達点のひとつとして、その完成度を高く評価されることとなった。

このバレエには組曲が2つある。《組曲第1番》はバレエ第1部終わりから第2部にかけての音楽に相当し、3つの部分にわけられる。〈夜想曲〉は海賊が来襲し、クロエが連れ去られたあとの音楽。祭壇が不思議な光で包まれ、3人のニンフがダフニス^{トミダス}を蘇らせる。山なりの「ダフニスの動機」が奏でられ、主人公はパンの神に祈りをささげる。〈間奏曲〉は管楽器主体の静かな音楽。音量が次第に増していき、ファンファーレとともに舞台は海賊の陣営へと移る。〈戦いの踊り〉は海賊達の舞曲。スタッカートと大きな跳躍からなる主題と、レガートでつながった16分音符の速いパッセージが交互にあらわれ、興奮の度合いが次第に高まっていく。

《組曲第2番》はバレエ第3部の音楽に相当する。〈夜明け〉では海賊から解放されたクロエが、恋人ダフニスと再会。〈無言劇〉ではフルートの奏でる音楽にあわせ、ダフニス^{トミダス}がパンの神を、クロエがその恋人シランクスを演じる。〈全員の踊り〉は本作の大団円。バレエ前半の回想をはさみつつ、壮大なクライマックスが築かれる。ボロディン《だったん人の踊り》を彷彿^{ほうぼう}とさせる管弦楽の壮麗な響きや、4分の5拍子の独特なリズムは、当時のラヴェルが、ロシア音楽からいかに強い感化を受けていたかを物語っている。

作曲年代	1909年6月～1912年6月
初演	[組曲第1番] 1911年4月2日、パリ・シャトレ劇場、コロヌ管弦楽団、ガブリエル・ピエルネ指揮 [組曲第2番] 不明
楽器編成	フルート3(ピッコロ2)、アルト・フルート1、オーボエ2、イングリッシュ・ホルン1、クラリネット2、Esクラリネット1、バス・クラリネット1、ファゴット3、コントラファゴット1、ホルン4、トランペット4、トロンボーン3、チューバ1、ティンパニ2、大太鼓、シンバル、小太鼓、中太鼓、トライアングル、タンブリン、タムタム、アンティークシンバル、ウインドマシーン、サスベンデッド・シンバル、カスターネット、ハーブ2、チェリスト1、ジュ・ドゥ・タンブル1、弦楽

ドビュッシー

交響詩「海」

クロード・ドビュッシー(1862～1918)は友人の作曲家メサジェにあてた1903年9月の手紙の中で、かつて航海士になることを夢見ていたと明かしている。海を題材にした

「交響的スケッチ」の構想を彼がいつ頃抱くようになったかは定かではないが、出版社との間では、この計画は早くから話し合われていたようだ。実際の創作については、ブルゴーニュ地方に滞在していた1903年8月に着手したことがわかっている。

作品の完成は1905年3月のことだが、それまでの1年半の間に、作曲家の私生活には大きな変化があった。エンマ・バルダックとの出会い(1903年10月)は不倫の恋愛へと発展し、やがて発覚すると、妻の自殺未遂、友人達との別離といった出来事が相次いだのだ。その間、ドビュッシーには海のそばで過ごす暇がほとんどなかった。いわば彼は記憶の中の「海」を頼りに、本作を書かざるをえなかったのである。

楽曲構造は独特で、ソナタ形式のような伝統的な形式との関連性を見出すことは難しい。ただ、ゆったりとした序奏ではじまり、コラール風主題で終わるという劇的枠組みや、スケルツォ楽章を中央に配置した3楽章構成、フランクを思わせる循環主題の技法などにより、本作がほとんど交響曲のように、手堅く構成されている点は注目に値しよう。名実ともに「巨匠」に変貌しつつあったこの時期のドビュッシーならではの、傑出した作品である。

第1曲「海あいまいの夜明けから真昼まで」変ニ調。5つの部分からなる(A-B-C-D-E)。序奏(A)では曖昧な響きの中、息の長い、弧を描くような主要主題が提示される。活発な部分(B)を経て、第3の部分(C)ではチェロの新しい主題と主要主題が展開。つかの間の停滞(D)を経て、結尾部(E)ではホルンの新しい主題とトランペットの旋律が輝かしく響き渡る。**第2曲「波の戯れ**」ホ調。自由な2部形式。前半では木管楽器による3連符の主題、ヴァイオリンとフルートによるワルツ風の主題が提示される。後半は既出素材の展開からなり、終盤ではワルツ風主題を起点に、大きな山場が築かれる。**第3曲「風と海との対話**」変ニ調。自由なロンド形式で書かれている(A-B-A'-C-B'-B"-結尾部)。Aにおいて第1曲主要主題があらためて登場するのに対し、Bではせりあがるような、3連符の主題が繰り返される。Cのコラール風主題は、第1曲結尾部のホルンの主題に由来する。3連符主題が大きな盛り上がりを見せたあと(B")、終結部ではここまでの主題を重ね合わせつつ、華やかに曲が閉じられる。

作曲年代	1903年8月～1905年3月5日
初演	1905年10月15日、パリ・新劇場、ラムルー管弦楽団、カミーユ・シュヴィヤール指揮
楽器編成	フルート2、ピッコロ1、オーボエ2、イングリッシュホルン1、クラリネット2、ファゴット3、コントラファゴット1、ホルン4、トランペット3、コルネット2、トロンボーン3、チューバ1、ティンパニ1、大太鼓、トライアングル、シンバル、サスペンデッド・シンバル、タムタム、グロッケンシュピール、ハープ2、弦楽

PROGRAM

C

第1975回

NHKホール

1/20 金 7:30pm

1/21 土 2:00pm

指揮

トゥガン・ソヒエフ | プロフィールはp. 8

コンサートマスター

白井 圭

〔開演前の室内楽(Cプログラム限定)〕

20日(金)6:45pm〜/21日(土)1:15pm〜

オーボエ:和久井 仁 ヴァイオリン:大宮臨太郎、小林玉紀 ヴィオラ:御法川雄矢 チェロ:宮坂拓志

コントラバス:本間達朗

モリコーネ(御法川雄矢編)/ガブリエルのオーボエ(映画「ミッション」から)

カプースチン/弦楽四重奏曲 第1番 作品88—第4楽章

久石 譲(御法川雄矢編)/君をのせて(映画「天空の城ラピュタ」から)

※演奏はご自身の座席でお楽しみください。

※演奏中の客席への出入りは自由です。

ラフマニノフ

幻想曲「岩」作品7[13']

チャイコフスキー

交響曲 第1番ト短調 作品13

「冬の日の幻想」[44']

I 冬の旅の幻想:アレグロ・トランクイロ

II 憂鬱の地、霧の地:

アダージョ・カンタービレ・マ・ノン・タント

III スケルツォ:アレグロ・スケルツァンド・ジョコーソ

IV 終曲:アンダンテ・ルグブレ

—アレグロ・マエストーソ

※ この公演に休憩はございません。あらかじめご了承ください。

※ 演奏時間は目安です。

インターネットアンケートにご協力ください

N響では、今後のよりよい公演の実現に向けて、インターネットでアンケートを行っています。みなさまの貴重なご意見を参考にさせていただきます。ご協力をお願いいたします。

詳しくは40ページをご覧ください



こちらのQRコードから
アンケートページへアクセスできます



<https://www.nhks.or.jp/enquete.html>

ピョートル・イリイチ・チャイコフスキー(1840~1893)と彼を深く敬愛していたセルゲイ・ラフマニノフ(1873~1943)。この巨星たちがそれぞれ音楽院卒業後に向かったのが、《交響曲第1番》と《幻想曲「岩」》であった。前者には《交響曲第4番》から《第6番》には見られないような発想や敏捷な転換が、後者には重厚な標題音楽に向かおうとする気概が感じられる。いずれも若やかな感性がなんとも眩しい楽曲である。

ラフマニノフ

幻想曲「岩」作品7

《幻想曲「岩」》は、弱冠20歳のラフマニノフの管弦楽作品である。ソ連の音楽学者アペチャーンによると、4手版ピアノ譜の自筆譜に「《幻想曲》／黄金色の雨雲が一夜を過ごした／巨人のように切り立った岩の胸もとで／レールモントフ」とあり、また自筆総譜の筆写譜にも、この曲がレールモントフの詩『切り立つ岩(断崖)』(1841)の印象にもとづいて書かれ、最初の2行を題辞とした旨が書かれているという。原詩は8行からなり、以前にはリムスキー・コルサコフらによって少なくとも15以上の歌曲が作られていた。

原詩には詩人が翻訳していたハインェなどドイツ語詩からの影響が認められる。また同じくこの冒頭2行を題辞として展開した作品に、チェーホフの短編小説『旅中』(1886)があり、ここでは雪をまとった松の木が南国の椰子を、切り立つ断崖が去った雲を想い涙するハインェ=レールモントフの寓意的情景が源泉になっている。老境の絶望的に不幸な男と若い娘が偶然、駅馬車の宿駅に居あわせ、会話を通じて互いに一筋の理解を見いだすも、やがて時間が来て娘は去り、見送る男に粉雪が重く降り積もる――。

実は《幻想曲》の標題はこの『旅中』でもあった。ラフマニノフは敬愛するチェーホフに出版譜を贈り、そこに「同じ題辞をもつ短編小説『旅中』の内容が本作の標題となりました」と認めている。作品は標題つき単一楽章のため交響詩にも類似、冒頭、半音で下行する暗澹とした第1主題、軽やかに飛翔する第2主題、どこか感傷的でさまざまに姿を変える第3主題を軸に展開する。ここには原詩の対照性を柱としつつも、一連の標題を総合したような世界観が感じられる。まさに先達との創造的対話の結晶と言える作品である。

作曲年代	1893年夏
初演	1894年4月1日(ロシア旧暦3月20日)、モスクワ、ロシア音楽協会モスクワ支部交響楽演奏会、サフォーノフ指揮
楽器編成	フルート2、ピッコロ1、オーボエ2、クラリネット2、ファゴット2、ホルン4、トランペット2、トロンボーン3、チューバ1、ティンパニ1、トライアングル、タンブリン、シンバル、サスペンデッド・シンバル、大太鼓、タムタム、ハープ1、弦楽

交響曲 第1番ト短調 作品13「冬の日の幻想」

1866年春、モスクワ音楽院で教え始めた25歳のチャイコフスキーは《交響曲第1番》の作曲に挑んだ。チャイコフスキー作品は当時、ときにその第一印象で、今からは信じられないような酷評を同時代人から受けたが、やはり《交響曲第1番》もその執筆時から批判にさらされていた。しかしチャイコフスキー自身も本作に多くの改善の必要を感じていたようである。

当初1866～1868年に作曲・改訂・初演された本作は、さらに出版に際して1874年以降、改訂が続けられた。その1874年の改訂で、チャイコフスキーは第1楽章第2主題をまったく新しいものに差し替え、第2、4楽章を短縮している。この稿(1874年稿)が翌1875年に出版(初版)されたあと、1883年に初演を迎えると、その前後でまたさらなる改訂を加えた。この頃チャイコフスキーがフォン・メック夫人に送った手紙では、「本質的にはほかの多くの作品よりも充実している作品だが、残念ながら出版譜にきわめて誤植が多く、かろうじて演奏できるレベル」と嘆いている。そして一連の修正が反映された第2版が作曲家の晩年となる1889年に出版された。苦悶のなかに強^{くもん}韌^{きょうじん}な意志を感じさせる道程である。

作品と第1～2楽章には広大なロシアの冬の情景を喚起する表題がつけられている。第2楽章をのぞき、セクションごとに総休止が入るのがおもしろい。第1楽章〈冬の旅の幻想〉はソナタ形式で第1主題を核としたダイナミックな構成。再現部冒頭、半音で重なるホルンはやがて霧が晴れていくように響く。第2～4楽章には自作の旋律も応用されている。第2楽章〈憂鬱の地、霧の地〉は序奏を経て、物悲しげな第1主題と、ここから派生した牧歌的な第2主題が交互に登場する。第3楽章はスケルツォ。弱拍アクセントの独特なリズムをもつ軽快な舞曲風主題と中間部のワルツ風主題の対照が妙。第4楽章はソナタ形式で、序奏と第2主題にはおそらくロシア民謡《私は花の種を蒔こうかしら》が引用されている。明るく勇壮な第1主題にはフガートのエピソードが続き、展開部はこのフガートで始まる。コーダでは第2主題の調で大団円に至る。

作曲年代	1866年3月～1868年2月、1874年、1883年以後
初演	[第3楽章のみ] 1866年12月22日(ロシア旧暦10日)、モスクワ、ロシア音楽協会モスクワ支部交響楽演奏会、ニコライ・ルビンシテイン指揮 [第2、3楽章のみ] 1867年2月23日(同旧暦11日)、サンクトペテルブルク、ロシア音楽協会サンクトペテルブルク支部交響楽演奏会、アントン・ルビンシテイン指揮 [全曲初演] 1868年2月15日(同旧暦3日)、モスクワ、ロシア音楽協会モスクワ支部交響楽演奏会、ニコライ・ルビンシテイン指揮 [1874年稿初演] 1883年12月1日(同旧暦11月19日)、モスクワ、ロシア音楽協会モスクワ支部交響楽演奏会、エルトマンスデルファー指揮
楽器編成	フルート2、ピッコロ1、オーボエ2、クラリネット2、ファゴット2、ホルン4、トランペット2、トロンボーン3、チューバ1、ティンパニ1、シンバル、大太鼓、弦楽

N響音百年史

第三十四回 — ケーニヒ去りてシフェルブラット来たる

片山杜秀 — Morihide Katayama

二〇二六年のN響創立百周年に向け、NHK「FM」クラシックの迷宮のパーソナリティとしてもお馴染みの思想史研究者で音楽評論家の片山杜秀さんが、時代背景とともにN響の歴史をひもときます。新練習所に続いて新しい楽器を手に入れた新交響楽団は、ケーニヒの指導のもと室内楽にも挑戦し、アンサンブルを磨いていきますが――。

楽器新調

オーケストラは楽団員の腕前だけで鳴るのではない。肝心かなめは楽器である。仮に演奏者の技量がいかに優れていたとしても、劣悪な楽器を持たされたら、相応にしか響かない。管楽器では調律や音色の問題もある。同じ金管楽器や木管楽器でも、出自が違えば、並んで吹いても決してうまきは揃わない。

山田耕筰中心の日本交響楽協会から分離独立して近衛秀麿中心の新交響楽団へと展開してきた、今日のNHK交響楽団の初期の歴史には、この問題がつきまとっていた。管楽器の音程や音色の不調和が、演奏者にも聴衆にもストレスをもたらす。そこで新交響楽団は発足して間もなく、新しい楽器をまとめてドイツに発注した。同オーケストラが定期公演(当時は予約演奏会)を始めたのは1927(昭和2)年の2月。その翌々月の4月から5月にかけて、ヨーゼフ・ケーニヒの指揮により開催されたベートーヴェン没後100年記念の連続演奏会のために発行された機関誌『曲目と解説』(現「フィルハーモニー」)の特別号のお知らせ欄にはこうある。

「従来は管楽器が不統一で[あ]つたため、(例へば同じ楽器でさへも仏国製、米国製、英国製、露国製などと々違つて居たりしたので)演奏者の苦辛はさて置き、各々のピッチの相違から、間違ひでない不協和音を時々は会員諸兄にまでお聞かせしなければならなかつた次第でしたが、かねて註問中であつた独逸ツィムメルマン社の真鍮管楽器が到着しましたから、今度からはその点に就ては相当に御満足が与へられると思ひます」

このとき、やってきたのは、ホルンが4本、トランペットが2本、トロンボーンが3本。やや遅



1927年5月3日「ベートーヴェン百年祭」。新交響楽団はヨーゼフ・ケーニヒ指揮のもと、初めて〈第9〉演奏に挑んだ

れて秋には木管楽器も届いた。楽器の不揃い問題は大幅に解消された。

が、オーケストラが慌てて新しく管楽器を買い集めたのには、他のわけもあった。響きの不調和の解決は重大だけれど、それは日本交響楽協会の時代からよく認識されていたこと。にもかかわらず対応できていなかったのは経済的理由だ。けれど、それで済ませられなくなった。何が何でも買わねばいけなくなった。多くの管楽器は山田耕筰率いる日本交響楽協会の所有物だったのである。ほとんどの楽員たちは山田よりも近衛を選び、日本交響楽協会は分裂して、新交響楽団の旗揚げに参加した。山田は面白くない。自分から去っていった楽員たちに温情を示す特段の理由もない。山田は日本交響楽協会の看板を相変わらず掲げ続けていて、新たに楽員を募り、オペラの興行などもしたい。楽器は必要なのだ。近衛と新交響楽団に返却を迫ったようである。そこで慌ててまとめ買いをせざるを得なくなった。

けれども、この話はちょっとおかしい。ずっと

お金がなかったから買えなかったものが、急にどうして買えたのか。定期公演を新たに始めたので大金が転がり込んだのか。そんなことはない。月2回の定期公演のセット券を、A席5円、B席3円で売る。日本交響楽協会のときととりあえず料金は同じ。年間で定期会員券を購入しても、好きな座席を固定して確保できるだけで、割引きはない。年間の定期公演は10か月、20回で、A席50円、B席30円。ただし、家族など複数人で年間定期会員を申し込むと、ひとりあたり1割引きになる。定期会員代は演奏会のある前月のうちに徴収する。年間券なら楽季の始まる前の月までにお買い上げいただく。先払いの制度に慣れていない会員も多く、事務所にはさまざまな苦情が寄せられる。機関誌が期日どおり送られてこなくてけしからぬと怒られもする。オーケストラはなかなかプライドが高いので、“お客様”に反論することもよくあったらしい。

とにかく、そうやって手間暇かけてお金をかき集める。日本交響楽協会から新交響楽団に



新設した荏原練習所にて。それぞれ楽器を手に写る新交響楽団のメンバーと、ヨーゼフ・クーニヒ(中央左)、近衛秀麿(中央右)

変わって、定期会員が急増したわけでもない。また、放送局の仕事の枠が拡大したわけでもない。月末までに定期会員代を集金しては、楽員の給料を払う。そのためギリギリで推移している。山田耕筈が「楽器を返せ」と要求してきたからすぐに代わりを買うなどという予算は、1927年の新交響楽団にはない。

となれば、予想される答えはひとつしかなく、それが正解である。楽器代の出どころは近衛家であった。近衛秀麿が兄の文麿ふみまろに頼んで出してもらった。近衛家がオーケストラに買い与えた。近衛秀麿は新交響楽団を必ずしも仕切りたわけではなかった。日本交響楽協会を分裂させず、山田に任せて、単身、欧州に渡り、指揮活動をしたかった。1926(大正15/昭和元)年の途中まではそうだった。でも、そうはできず、新しいオーケストラのメンバーに担ぎ上げられ、練習所の土地を買わされ、上物を建てさせられ、楽器まで買い揃えさせられた。新交響楽団は“近衛交響楽団”ではないし、事実、近衛家からの持ち出しは、オーケストラ経営の

ための資金のあくまで一部を賄っているに過ぎない。だが、近衛秀麿としては“近衛交響楽団”的感覚になってござるを得ない。山田耕筈のワンマンぶりもずっと身近に観てきた近衛である。どんどん勝手をやりたくなってくる。

室内楽からマーラーまで ——躍進する楽団

オーケストラの演奏活動はというと、極めて順調に進展してゆく。メンバーも厚くなってくる。1927(昭和2)年の秋、齋藤秀雄が長い留学から戻り、チェロ奏者として入団したことが大きい。齋藤は1902(明治35)年生まれ。1922(大正11)年からドイツに行き、ベルリンでは近衛秀麿と行動を共にして、深い盟友関係が出来ていた。近衛が帰国しても、齋藤は長くかの地に残り、ライブツィヒでユリウス・クレンゲルに習ってチェロの技芸を鍛え、ようやく東京に帰ってきた。帰ったら近衛を助けてオーケストラと一緒にやる約束があった。

齋藤の加入で、新交響楽団の弦楽パートは躍進する。齋藤はドイツ仕込みの練習法を楽員たちに伝え、楽員兼トレーナーのような具合で振る舞ってゆく。本来はヴァイオリニストのケーニヒも、近衛とコンビを組んで指揮者団を形成し、相変わらずオーケストラの技術指導に励んでいる。ケーニヒは、交響楽団を室内楽の拡大として考え、たとえば弦楽のメンバーなら弦楽四重奏に習熟することで、管弦楽全体のアンサンブルの技量の向上によりよく貢献できると信じていた。そこに齋藤の登場。機は熟したり。ケーニヒはそう思った。内々の練習と試演にとどまらず、新交響楽団の正式な演奏会として、メンバーによる室内楽コンサートを始めた。

1928(昭和3)年1月29日、報知講堂に新交響楽団の楽員による弦楽四重奏団が登場した。ヴァイオリンはケーニヒと前田^{たまき}磯、ヴィオラが池^{いけ}譲、チェロは齋藤。そこにクラリネットの辻井^{いけゆずる}富造も加わった。また、同年3月には、ヴァイオリンがケーニヒと加藤^{かいち}嘉一、ヴィオラが佐藤友吉、チェロは大村^{うしろ}卯七という、また別の弦楽四重奏団も誕生した。楽員が種々の組み合わせで室内楽を組んで、研鑽^{けんさん}を積み、公式・非公式の発表会を行い、その経験をオーケストラ演奏にフィードバックさせてゆく。ケーニヒの理想がはっきりとかたちを成し始めたのは1928年からといってよい。

さて、1928年の定期公演は？ 近衛は意欲的に大曲に取り組む。3月にはモーツァルトの《交響曲第41番「ジュピター」》、4月にはスクリャーピンの《法悦の詩》、5月にはシューベルトの《交響曲第8番「ザ・グレート」》、9月にはチャイコフスキーの《交響曲第6番「悲愴」》、10月にはマーラーの《交響曲第1番「巨人」》、12月には独唱者全員に西洋人を揃えてのベートーヴェンの《交響曲第9番「合唱つき」》といっ

た具合。ケーニヒはというと、2月にドビュッシーの《交響詩「海」》、11月にはラヴェルの《スペイン狂詩曲》やボロディンの《交響曲第2番》を振っている。定期公演での出番は少なめだが、放送のための演奏となるとケーニヒが多い。

そして1929(昭和4)年へ。ケーニヒが改めて目立ってくる。1月30日の第42回定期ではベートーヴェンの《交響曲第3番》を振り、3月10日の第45回定期では近衛の指揮で、プラハ音楽院時代のケーニヒの恩師でもあるドヴォルザークの《ヴァイオリン協奏曲》を独奏。3月21日の第46回定期は、ケーニヒの指揮で、リヒャルト・シュトラウスの《交響詩「ドン・ファン」》やブラームスの《交響曲第2番》。ケーニヒ人気の高まりだろうか。そうともいえる。楽員たちにはケーニヒを慕う者が多かった。特に弦楽奏者への懇切丁寧な技術指導は、新交響楽団の演奏水準を右肩上がりの軌道に乗せる原動力だった。チェコやオランダやフィンランドやロシアでの長年の演奏体験や作曲家たちの思い出話は、新交響楽団の演奏スタイルの血となり肉となっていた。おまけに室内楽では自らヴァイオリンを手に取り、楽員たちと共演してくれる。そんなケーニヒの楽壇生活35周年に当たるのが1929年。いちおう5年刻みとはいえ、キリが特に良くはないかもしれない。それでも、楽員たちは大恩人の記念年をどうしても祝いたかった。4月14日には特別演奏会が開かれた。

どんなプログラムだったか。まずは近衛が、ケーニヒの祖国に敬意を表し、スメタナの《モルダウ》を指揮。それからケーニヒが、ソプラノの松平里子、ヴァイオリンのニコライ・シフェルブラット、ピアノのハンカ・ベツォルトと共演して、モーツァルトのオペラのアリア、チャイコフスキーとグリーグの協奏曲を披露。最後は近衛が再び登場して十八番のワーグナーの《楽劇「ニュ



1929年4月の機関誌『フィルハーモニー』は「ケーニヒ記念号」として刊行され、冒頭ページでは「楽壇35年を祝はれる私等の父」ケーニヒと紹介されている

1929年4月2日、東京駅に着いたニコライ・シフェルブラット（右から2番目）とマキシム・シャピロ（左端）を出迎えるヨーゼフ・ケーニヒ（右端）と近衛秀麿（左から2番目） | 『フィルハーモニー』1929年5月号より



ルンベルクのマイスタージンガー』からの管弦楽曲集を振って結ぶ。華やかなガラ・コンサートである。

「ケーニヒ事件」

ところが、それからほぼ1か月経った5月15日、事件が起きた。ケーニヒの日本での内縁の妻、鈴木はなが、ケーニヒ家に派遣されていた家政婦の中村ふみ子とケーニヒとの関係を

疑い、派遣元の派出婦協会に乗り込んだ。派出婦協会は、根も葉もない作り話で協会を侮辱したと、警察沙汰にする。大した話ではなさそうにも思われる。ところが官憲はこの事件を重大視した。ケーニヒは1925(大正14)年の日露交驛(交歓)交響管絃楽演奏会の際にハルビンから初来日した音楽家である。政界・官界の重大物、後藤新平らが背後で応援したからこそ実現したが、軍や警察としては、ソ連からの“赤系ロシア人”と共産革命を避けてハルビンに溜まっている白系ロシア人が合同して大挙

来日する、この催事を疎ましく思っていた。日本に共産主義が輸出される大きな機会にならないかと心配していた。ケーニヒはそのとき以来の要注意人物のひとりである。政治性はない人物にも見えるが、裏にどのような背景があるかはわからない。できればどこかで帰ってほしい。1928(昭和3)年3月15日には日本共産党を弾圧する3.15事件が起き、1929年3月5日には労働農民党の代議士、山本宣治が右翼に暗殺されたばかりだ。ケーニヒは官憲から自主的な国外退去を勧められる。従わなければ事を荒立てるといふ。そうなれば、無実の罪であるにしても、放送局やオーケストラとの仕事はできなくなる。ケーニヒは脅しに屈するしかなかった。6月30日、プラットフォームでの新交響楽団メンバーによるタイケの《旧友》の演奏に見送られつつ、東京駅からハルビンへと帰っていった。

このとき、ケーニヒへの近衛の態度は比較的冷淡であり、ケーニヒを救う工作を何ら試みなかったとも伝えられる。実は裏で手を回して失敗したのかもしれないが、そうでないとしたら、近衛には彼なりの理由があったかもしれない。オーケストラにおけるケーニヒの存在が大きくなり過ぎていた。ケーニヒはヴァイオリンの名手として共に演奏して楽員たちを心服させられ

る。近衛もピアノは弾くが特にうまくはない。あくまで指揮者兼作曲家である。ケーニヒほど楽員と一体になれない。しかもケーニヒはうるさい。近衛の指揮にも作曲にも注文を出してくる。リハーサル会場で、楽員たちがいるときでも容赦がない。面子丸つぶれではないか。そうしているうちにケーニヒは音楽生活35周年。周りは浮かれ返る。近衛は嫉妬していたかもしれない。官憲以上に満洲に帰ってほしいと願っていたとしても、人間心理として不思議ではないだろう。穿ちすぎているだろうか。

ともかくまったくタイミングのいいことに、ケーニヒの代役を務め得る音楽家もちょうど見つけていた。4月14日の祝賀演奏会で、ケーニヒの指揮のもと、チャイコフスキーの《ヴァイオリン協奏曲》を独奏したシフェルブラットである。

文 | 片山杜秀(かたやま もりひで)

思想史研究者、音楽評論家。慶應義塾大学法学部教授。2008年、『音盤考現学』『音盤博物誌』で吉田秀和賞、サントリー学芸賞を受賞。『クラシックの核心』『ゴジラと日の丸』『近代日本の右翼思想』『未完のファシズム』『見果てぬ日本』『尊皇攘夷』ほか著書多数。

2023年2月定期公演のプログラムについて

公演企画担当者から

尾高渾身のタクトで ポーランド民族の魂に触れる

[Aプログラム]の尾高尚忠《チェロ協奏曲》は1944年、戦時下の日独交歓演奏会において、N響の前身である新響が世界初演した。ソロによる情熱的な導入はエルガーを、スケールの大きさはドヴォルザークを思わせる。“ミラーソラ・ラミー”という都節風のテーマは一度聴くと耳から離れない。ドイツ音楽の伝統的な形式に則りながら、日本らしさを出そうとした作曲者の工夫の跡がうかがえる。尚忠は言うまでもなく指揮者・尾高忠明の父。宮田大は初演時のソリスト、倉田高の娘である澄子に師事した。80年近い歳月を経て、初演ゆかりの顔ぶれが勢ぞろいする。

パヌフニクと尚忠は、共にウィーンで学んだ親友同士である。ソ連によるポーランド人虐殺をテーマにした《カティンの墓碑銘》は、悲痛な事件への哀悼と祈りの歌。一方、パヌフニクとデュオ仲間だった同じポーランド人のルトスワフスキは、ソ連の抑圧下にある民族の

魂を《管弦楽のための協奏曲》に込めた。一見渋い選曲だが、どの作品も聴きごたえ十分。20世紀の歴史の断面に迫る、尾高渾身の好企画と言えよう。

気鋭フルシャが贈る 母国チェコの愛国的作品とブラームス

[Bプログラム]のシマノフスキも、ポーランドを代表する作曲家だ。後期ロマン派風に始まり、オリエントや印象主義の影響を受けたり、民俗音楽に傾倒したりと、次々スタイルを変えたが、探求の旅路のひとつの終着点が《協奏交響曲》である。2006年にもこの曲を弾いたアンデルシェフスキが、再演を強く希望した。密やかでありながらしっかり芯のある音質、ヴァイオリンやフルート・ソロとの神秘的な掛け合い、舞曲の絶妙なリズム感など、当時の演奏は今も鮮やかに記憶に残っている。

祖国チェコの大作作曲家ドヴォルザークは、フルシャの大事なレパートリーである。《フス教徒》のフスとは、ルターに先立つこと1世紀、

チェコで宗教改革を先導した人物。曲の素材にフス教徒のコラールが使われるが、ブラームス《交響曲第4番》の第4楽章では、熱心なルター派であったバッハのカンタータが変奏の主題になっている。N響が名だたる巨匠たちと数限りなく演奏したブラームス。2025年、名門ロイヤル・オペラ・ハウスの音楽監督に就任する“未来の巨匠”フルシャは、そのタクトを任せるにふさわしい指揮者のひとりである。

2つの《シンフォニック・ダンス》に交錯する ロシアとアメリカのエッセンス

英語に“juxtaposition”という単語がある。“並置”と訳されるが、2つを並べることでそれぞれの特徴を際立たせるといったニュアンスを含む。[Cプログラム]は、どちらも20世紀半ばに生まれた《シンフォニック・ダンス》だが、バーンスタインとラフマニノフではその個性に天地の開きがある。指揮のフルシャはこの“juxtaposition”のアイデアに大変興味を示し

てくれた。

ミュージカルの聴きどころを集めた前者は、多様なリズムやメロディが交錯する、いかにもアメリカ的な作品。〈サムホエア〉や〈マンボ〉といった人気ナンバーが紡がれる中、十二音技法を用いるなど前衛的な側面も持つ。

一方、教会の聖歌や愁いを秘めたワルツ等、ロシアのエッセンスが詰まったラフマニノフの作品は発表当時、“前世紀の遺物”的扱いを受け、酷評された。しかしブロードウェイの流行作曲家にアルト・サクスの用法を教わるなど、決して時代に背を向けて書かれたわけではない。今日では彼の晩年の傑作として広く認められている。

2曲の“juxtaposition”がどのような異化作用をもたらすのか、聴き手の皆様の反応が興味深い。

[西川彰一／NHK交響楽団 芸術主幹]

A 2/4^土
6:00pm
2/5^日
2:00pm
NHKホール

尾高尚忠／チェロ協奏曲 イ短調 作品20
バヌフニク／カティンの墓碑銘
ルトスワフスキ／管弦楽のための協奏曲
指揮：尾高忠明
チェロ：宮田 大



B 2/15^水
7:00pm
2/16^木
7:00pm
サントリーホール

ドヴォルザーク／序曲「フス教徒」作品67
シマノフスキ／交響曲 第4番 作品60「協奏交響曲」*
ブラームス／交響曲 第4番 ホ短調 作品98
指揮：ヤクブ・フルシャ
ピアノ：ヒョートル・アンデルシェフスキ*



C 2/10^金
7:30pm
2/11^{土・祝}
2:00pm
NHKホール

バーンスタイン／
「ウエスト・サイド・ストーリー」からシンフォニック・ダンス
ラフマニノフ／交響的舞曲 作品45
指揮：ヤクブ・フルシャ



チケットのご案内(定期公演 2022年9月～2023年6月)

1回券

公演ごとにチケットをお買い求めいただけます。料金は公演によって異なります。各公演の情報をご覧ください。

発売開始日	1・2月	発売中
	4・5・6月	3月1日[水](定期会員先行)／3月5日[日](一般)

※発売予定時期は変更となる場合があります

定期会員券

毎回同じ座席をご用意。1回券と比べて1公演あたり10～30%お得です！(割引率は公演や券種によって異なります)

※ A-CプログラムはNHKホール改修工事の終了にともない、今シーズンより会場をNHKホールに戻して開催します

※ A-2とC-2の開演時刻は2:00pm、C-1の開演時刻は7:30pmとさせていただきます。A-1(6:00pm)、B-1、B-2(7:00pm)の開演時刻に変更はございません

発売開始日	年間会員券	販売終了
	シーズン会員券(Autumn / Winter)	販売終了
	シーズン会員券(Spring)	2月14日[火](定期会員先行)／2月17日[金](一般)

料金(税込)

券種	S	A	B	C	D	D(ユースチケット)
年間会員券(9回) [A・Bプログラム]	¥65,970 (¥7,330)	¥56,610 (¥6,290)	¥44,010 (¥4,890)	¥35,730 (¥3,970)	¥27,540 (¥3,060)	¥8,100 (¥900)
年間会員券(9回) [Cプログラム]	¥56,610 (¥6,290)	¥49,725 (¥5,525)	¥39,780 (¥4,420)	¥32,130 (¥3,570)	¥24,480 (¥2,720)	¥7,200 (¥800)

券種	S	A	B	C	D	D(ユースチケット)
シーズン会員券(3回) [Aプログラム]	¥23,820 (¥7,940)	¥19,860 (¥6,620)	¥15,570 (¥5,190)	¥12,540 (¥4,180)	¥9,480 (¥3,160)	¥3,300 (¥1,100)
シーズン会員券(3回) [Cプログラム]	¥19,890 (¥6,630)	¥17,520 (¥5,840)	¥14,010 (¥4,670)	¥11,250 (¥3,750)	¥8,550 (¥2,850)	¥3,000 (¥1,000)

※()内は1公演あたりの単価

WEBセレクト3+

Autumn(9～11月)、Winter(12～2月)、Spring(4～6月)の各シーズン内の公演(9プログラム18公演)のうち、3公演以上まとめて購入すると、1回券の一般料金より約8%割引いたします。座席・券種は自由にお選びいただけます。

※お取り扱いにはWEBチケットN響のみとなります

※1回券の一般発売日からご利用いただけます

※割引の併用はできません

※定期会員の方は1回券の会員割引(約10%割引)をご利用ください

ユースチケット

25歳以下の方へのお得なチケットです。1回券と定期会員券(D席)でご利用いただけます。2022-23シーズンからユースチケット1回券は、すべての券種で一般料金から50%以上お得にお買い求めいただけます。料金は各公演の情報をご覧ください。

※ N響ガイドのみの販売となります

※ 25歳以下の証明となるものをご提示いただけます

お問い合わせ

N響ガイド | TEL 03-5793-8161

営業時間：11:00am～5:00pm

定休日：土・日・祝日、定期公演Aプログラムの翌月曜日

●主催公演開催日は曜日に関わらず11:00am～開演時刻まで営業

●発売初日の土・日・祝日は11:00am～3:00pmの営業

●感染症予防対策のため電話受付のみの営業

WEBチケットN響(手数料無料) <https://ticket.nhkso.or.jp>

※やむを得ない理由で出演者や曲目等が変更となる場合や、公演が中止となる場合がございます。公演中止の場合をのぞき、チケット代金の払い戻しはいたしません

Please follow us on     

2022-23定期公演プログラム

2023 01	A	<p>第1974回</p> <p>1/14 土 6:00pm</p> <p>1/15 日 2:00pm</p> <p>NHKホール</p>	<p>名匠がブラームスとベートーヴェンの傑作を携え3年ぶりに登場!</p> <p>ブラームス/ピアノ協奏曲 第2番 変ロ長調 作品83</p> <p>ベートーヴェン/交響曲 第4番 変ロ長調 作品60</p> <p>指揮:トウガン・ソヒエフ</p> <p>ピアノ:ハオチェン・チャン</p>	<p>一般 ユースチケット</p> <p>S ¥8,900 S ¥4,000</p> <p>A ¥7,400 A ¥3,500</p> <p>B ¥5,800 B ¥2,800</p> <p>C ¥4,700 C ¥2,100</p> <p>D ¥3,700 D ¥1,500</p> <p>E ¥2,000 E ¥1,000</p>
		<p>第1976回</p> <p>1/25 水 7:00pm</p> <p>1/26 木 7:00pm</p> <p>サントリーホール</p>	<p>色彩の魔術師ソビエフがセレクトする20世紀の名品たち</p> <p>バルトーク/ヴィオラ協奏曲(シェイ版)</p> <p>ラヴェル/[ダフニスとクロエ]組曲 第1番、第2番</p> <p>ドビュッシー/交響詩「海」</p> <p>指揮:トウガン・ソヒエフ ヴィオラ:アミハイ・グロス</p>	<p>一般 ユースチケット</p> <p>S ¥8,900 S ¥4,000</p> <p>A ¥7,400 A ¥3,500</p> <p>B ¥5,800 B ¥2,800</p> <p>C ¥4,700 C ¥2,100</p> <p>D ¥3,700 D ¥1,500</p>
		<p>第1975回</p> <p>1/20 金 7:30pm</p> <p>1/21 土 2:00pm</p> <p>NHKホール</p>	<p>名匠が贈るラフマニノフ、チャイコフスキーの初期の名作</p> <p>ラフマニノフ/幻想曲「岩」作品7</p> <p>チャイコフスキー/交響曲 第1番 短調 作品13「冬の日の幻想」</p> <p>指揮:トウガン・ソヒエフ</p>	<p>一般 ユースチケット</p> <p>S ¥7,400 S ¥3,500</p> <p>A ¥6,500 A ¥3,000</p> <p>B ¥5,200 B ¥2,400</p> <p>C ¥4,200 C ¥1,900</p> <p>D ¥3,200 D ¥1,400</p> <p>E ¥1,600 E ¥800</p>
2023 02	A	<p>第1977回</p> <p>2/4 土 6:00pm</p> <p>2/5 日 2:00pm</p> <p>NHKホール</p>	<p>父・尚忠とその友人たち 尾高忠明 こだわりの選曲が現代人の魂に響く</p> <p>尾高尚忠/チェロ協奏曲 イ短調 作品20</p> <p>パヌフニック/カティンの墓碑銘</p> <p>ルトスワフスキ/管弦楽のための協奏曲</p> <p>指揮:尾高忠明</p> <p>チェロ:宮田 大</p>	<p>一般 ユースチケット</p> <p>S ¥8,900 S ¥4,000</p> <p>A ¥7,400 A ¥3,500</p> <p>B ¥5,800 B ¥2,800</p> <p>C ¥4,700 C ¥2,100</p> <p>D ¥3,700 D ¥1,500</p> <p>E ¥2,000 E ¥1,000</p>
		<p>第1979回</p> <p>2/15 水 7:00pm</p> <p>2/16 木 7:00pm</p> <p>サントリーホール</p>	<p>大器フルシャ、母国チェコの愛国的作品とブラームスの名作を携えN響再登場</p> <p>ドヴォルザーク/序曲「フス教徒」作品67</p> <p>シマノフスキ/交響曲 第4番 作品60「協奏交響曲」*</p> <p>ブラームス/交響曲 第4番 小短調 作品98</p> <p>指揮:ヤクブ・フルシャ ピアノ:ビョートル・アンデルシェフスキ*</p> <p>2/19日NHK交響楽団定期演奏会(愛知県芸術劇場シリーズ)</p>	<p>一般 ユースチケット</p> <p>S ¥8,900 S ¥4,000</p> <p>A ¥7,400 A ¥3,500</p> <p>B ¥5,800 B ¥2,800</p> <p>C ¥4,700 C ¥2,100</p> <p>D ¥3,700 D ¥1,500</p>
		<p>第1978回</p> <p>2/10 金 7:30pm</p> <p>2/11 土祝 2:00pm</p> <p>NHKホール</p>	<p>愛、怒り、高揚、憧れ、幻想</p> <p>——ダンスに込められた心の機微をフルシャが浮き上がらせる</p> <p>バーンスタイン/「ウエスト・サイドストーリー」からシンフォニック・ダンス</p> <p>ラフマニノフ/交響的舞曲 作品45</p> <p>指揮:ヤクブ・フルシャ</p>	<p>一般 ユースチケット</p> <p>S ¥7,400 S ¥3,500</p> <p>A ¥6,500 A ¥3,000</p> <p>B ¥5,200 B ¥2,400</p> <p>C ¥4,200 C ¥1,900</p> <p>D ¥3,200 D ¥1,400</p> <p>E ¥1,600 E ¥800</p>
2023 04	A	<p>第1980回</p> <p>4/15 土 6:00pm</p> <p>4/16 日 2:00pm</p> <p>NHKホール</p>	<p>バーヴォ・ヤルヴィ&N響が大管弦楽で描くアルプスの壮大なパノラマ</p> <p>R. シュトラウス/「ヨゼフの伝説」から交響的断章</p> <p>R. シュトラウス/アルプス交響曲 作品64</p> <p>指揮:バーヴォ・ヤルヴィ</p>	<p>一般 ユースチケット</p> <p>S ¥9,800 S ¥4,500</p> <p>A ¥8,400 A ¥4,000</p> <p>B ¥6,700 B ¥3,300</p> <p>C ¥5,400 C ¥2,500</p> <p>D ¥4,400 D ¥1,800</p> <p>E ¥2,800 E ¥1,400</p>
		<p>第1982回</p> <p>4/26 水 7:00pm</p> <p>4/27 木 7:00pm</p> <p>サントリーホール</p>	<p>シベリウス、ラフマニノフ、チャイコフスキー</p> <p>バーヴォ・ヤルヴィの十八番でその至芸を聴く</p> <p>シベリウス/交響曲 第4番 イ短調 作品63</p> <p>ラフマニノフ/バガニーニの主題による狂詩曲 作品43*</p> <p>チャイコフスキー/幻想曲「フランチェスカ・ダ・リミニ」作品32</p> <p>指揮:バーヴォ・ヤルヴィ ピアノ:マリイ・アンジュ・グッチ*</p>	<p>一般 ユースチケット</p> <p>S ¥9,800 S ¥4,500</p> <p>A ¥8,400 A ¥4,000</p> <p>B ¥6,700 B ¥3,300</p> <p>C ¥5,400 C ¥2,500</p> <p>D ¥4,400 D ¥1,800</p>
		<p>第1981回</p> <p>4/21 金 7:30pm</p> <p>4/22 土 2:00pm</p> <p>NHKホール</p>	<p>小粒でもリリと辛い!</p> <p>バーヴォ・ヤルヴィが贈るお洒落で小粋なフランス作品集</p> <p>ルーセル/弦楽のためのシンフォニエッタ 作品52</p> <p>プーランク/シンフォニエッタ</p> <p>イペール/室内管弦楽のためのディヴェルティスマン</p> <p>指揮:バーヴォ・ヤルヴィ</p>	<p>一般 ユースチケット</p> <p>S ¥7,400 S ¥3,500</p> <p>A ¥6,500 A ¥3,000</p> <p>B ¥5,200 B ¥2,400</p> <p>C ¥4,200 C ¥1,900</p> <p>D ¥3,200 D ¥1,400</p> <p>E ¥1,600 E ¥800</p>

Cプログラムについて | ・休憩のない、60～80分程度の公演となります。
 ・N響メンバーによる「開演前の室内楽」を舞台上で開催(1日目:6:45pm～/2日目:1:15pm～)。

A NHKホール		B サントリーホール		C NHKホール		
開場5:00pm 開演6:00pm 開場1:00pm 開演2:00pm		開場6:20pm 開演7:00pm 開場6:20pm 開演7:00pm		開場6:30pm 開演7:30pm 開場1:00pm 開演2:00pm		
2023 05	A	第1983回 5/13(土) 6:00pm 5/14(日) 2:00pm NHKホール	下野竜也が見つめる“祈り”と“奇跡”そしてライフワークのドヴォルザーク ラファニノフ／歌曲集 作品34 —「ラザロのよみがえり」(下野竜也編)、「ヴォカリーズ」 グバイドウーリナ／オッフエルトリウム* ドヴォルザーク／交響曲 第7番 二短調 作品70 指揮:下野竜也 ヴァイオリン:バイバ・スクリデ*		一般 S ¥8,900 A ¥7,400 B ¥5,800 C ¥4,700 D ¥3,700 E ¥2,000	ユースチケット S ¥4,000 A ¥3,500 B ¥2,800 C ¥2,100 D ¥1,500 E ¥1,000
	B	第1985回 5/24(水) 7:00pm 5/25(木) 7:00pm サントリーホール	新緑の季節 清々しいホルンの響きとルイーダが誘う《田園》 ハイドン／交響曲 第82番 八長調 Hob. I-82「くま」 モーツァルト／ホルン協奏曲 第3番 変ホ長調 K. 447 ベートーヴェン／交響曲 第6番 へ長調 作品68「田園」 指揮:ファビオ・ルイーダ ホルン:福川伸陽		一般 S ¥9,800 A ¥8,400 B ¥6,700 C ¥5,400 D ¥4,400	ユースチケット S ¥4,500 A ¥4,000 B ¥3,300 C ¥2,500 D ¥1,800
	C	第1984回 5/19(金) 7:30pm 5/20(土) 2:00pm NHKホール	19世紀末のフランスを象徴する交響楽の名品をルイーダの指揮で聴く サン・サーンス／ピアノ協奏曲 第5番 へ長調 作品103「エジプト風」 フランク／交響曲 二短調 指揮:ファビオ・ルイーダ ピアノ:パスカル・ロジェ		一般 S ¥7,400 A ¥6,500 B ¥5,200 C ¥4,200 D ¥3,200 E ¥1,600	ユースチケット S ¥3,500 A ¥3,000 B ¥2,400 C ¥1,900 D ¥1,400 E ¥800
2023 06	A	第1986回 6/10(土) 6:00pm 6/11(日) 2:00pm NHKホール	“カゼッラ・リバイバル”の仕掛人ノセダが贈る傑作歌劇のエッセンス プロコフィエフ／交響組曲「3つのオレンジへの恋」作品33bis プロコフィエフ／ピアノ協奏曲 第2番 ト短調 作品16 カゼッラ／歌劇「蛇女」からの交響的断章[日本初演] 指揮:ジャンナンドレア・ノセダ ピアノ:ペフンド・アブドゥライモフ* ★当初発表の出演者から変更となりました。		一般 S ¥8,900 A ¥7,400 B ¥5,800 C ¥4,700 D ¥3,700 E ¥2,000	ユースチケット S ¥4,000 A ¥3,500 B ¥2,800 C ¥2,100 D ¥1,500 E ¥1,000
	B	第1988回 6/21(水) 7:00pm 6/22(木) 7:00pm サントリーホール	ノセダがメモリアルイヤーに問うラファニノフ初期作の真価 バッハ(レスピーギ編)／3つのコラール レスピーギ／グレゴリオ風協奏曲* ラファニノフ／交響曲 第1番 二短調 作品13 指揮:ジャンナンドレア・ノセダ ヴァイオリン:庄司紗矢香*		一般 S ¥8,900 A ¥7,400 B ¥6,800 C ¥4,700 D ¥3,700	ユースチケット S ¥4,000 A ¥3,500 B ¥2,800 C ¥2,100 D ¥1,500
	C	第1987回 6/16(金) 7:30pm 6/17(土) 2:00pm NHKホール	満を持してN響で初披露 ノセダ得意のショスタコーヴィチ《第8番》 ショスタコーヴィチ／交響曲 第8番 八短調 作品65 指揮:ジャンナンドレア・ノセダ		一般 S ¥7,400 A ¥6,500 B ¥5,200 C ¥4,200 D ¥3,200 E ¥1,600	ユースチケット S ¥3,500 A ¥3,000 B ¥2,400 C ¥1,900 D ¥1,400 E ¥800

※今後の状況によっては、出演者や曲目等が変更になる場合や、公演が中止となる場合があります。あらかじめご了承ください。

2023-24定期公演予定(日程・指揮者)

	A	B	C
	NHKホール [土] 6:00pm [日] 2:00pm	サントリーホール [水] 7:00pm [木] 7:00pm	NHKホール [金] 7:30pm [土] 2:00pm
2023 09	9/9[土] 10[日] ファビオルイージ	9/20[水] 21[木] トン・コープマン	9/15[金] 16[土] ファビオルイージ
2023 10	10/14[土] 15[日] ヘルベルト・プロムシュテット	10/25[水] 26[木] ヘルベルト・プロムシュテット	10/20[金] 21[土] ヘルベルト・プロムシュテット
2023 11	11/25[土] 26[日] ウラディーミール・フェドセーエフ	11/15[水] 16[木] ユッカ・ベッカ・サラステ	11/10[金] 11[土] ゲルゲイ・マダラシュ
2023 12	12/16[土] 17[日] 第2000回定期公演 ファビオルイージ	12/6[水] 7[木] ファビオルイージ	12/1[金] 2[土] ファビオルイージ
2024 01	1/13[土] 14[日] トゥガン・ソヒエフ	1/24[水] 25[木] トゥガン・ソヒエフ	1/19[金] 20[土] トゥガン・ソヒエフ
2024 02	2/3[土] 4[日] 井上道義	2/14[水] 15[木] バプロ・エラス・カサド	2/9[金] 10[土] 大植英次
2024 04	4/13[土] 14[日] マレク・ヤノフスキ	4/24[水] 25[木] クリストフ・エッシェンバッハ	4/19[金] 20[土] クリストフ・エッシェンバッハ
2024 05	5/11[土] 12[日] ファビオルイージ	5/22[水] 23[木] ファビオルイージ	5/17[金] 18[土] ファビオルイージ
2024 06	6/8[土] 9[日] 原田慶太楼	6/19[水] 20[木] 鈴木優人	6/14[金] 15[土] 沖澤のどか

※出演者等の変更場合があります。あらかじめご了承ください。

※曲目やソリストなど公演の詳細は、2023年1月にN響ホームページで発表させていただく予定です。

※新シーズンの会員券手続きに関するご案内は、対象の方へ2023年5月中旬にお送りする予定です。

Cプログラムについて	※休憩のない、60～80分程度の公演となります。 ※N響メンバーによる「開演前の室内楽」を舞台上で開催します(1日目:6:45pm～/2日目:1:15pm～)。
------------	---

各地の公演

1/28(土) 2:00pm | トウガン・ソヒエフ & NHK交響楽団 高崎公演

高崎芸術劇場 大劇場

指揮:トウガン・ソヒエフ ヴィオラ:アミハイ・グロス
バルトーク/ヴィオラ協奏曲(シエルイ版)
ラヴェル/[ダフニスとクロエ]組曲 第1番、第2番
ドビュッシー/交響詩「海」

主催:高崎芸術劇場(公財)高崎財団 お問い合わせ:高崎芸術劇場 チケットセンター TEL (027) 321-3900

2/19(日) 3:00pm | NHK交響楽団定期演奏会(愛知県芸術劇場シリーズ)

愛知県芸術劇場 コンサートホール

指揮:ヤクブ・フルシャ ピアノ:ピョートル・アンデルシェフスキ*
ドヴォルザーク/序曲「フス教徒」作品67
シマノフスキ/交響曲 第4番 作品60「協奏交響曲」*
ブラームス/交響曲 第4番 ホ短調 作品98

主催:愛知県芸術劇場/NHK名古屋放送局 お問い合わせ:愛知県芸術劇場 TEL (052) 211-7552

2/25(土) 3:30pm | NHK交響楽団演奏会 宮崎公演

メディアキット県民文化センター(宮崎県立芸術劇場) アイザックスターンホール

指揮:尾高忠明 ヴァイオリン:辻彩奈
メンデルスゾーン/序曲「フィンガルの洞窟」作品26
ブルッフ/ヴァイオリン協奏曲 第1番 ト短調 作品26
ベートーヴェン/交響曲 第7番 イ長調 作品92

主催:NHK宮崎放送局/NHK交響楽団 お問い合わせ:ハローダイヤル TEL (050) 5542-8600

2/26(日) 5:00pm | NHK交響楽団演奏会 大分公演

iichiko総合文化センター iichiko グランシアタ

出演者・曲目は2月25日と同じ

主催:NHK大分放送局/NHK交響楽団 お問い合わせ:ハローダイヤル TEL (050) 5542-8600

2/27(日) 7:00pm | NHK交響楽団演奏会 熊本公演

熊本県立劇場 コンサートホール

出演者・曲目は2月25日と同じ

主催:NHK熊本放送局/NHK交響楽団 お問い合わせ:ハローダイヤル TEL (050) 5542-8600

3/7(日) 7:00pm | 2023都民芸術フェスティバル参加公演 オーケストラ・シリーズ No. 54

東京芸術劇場 コンサートホール

指揮:梅田俊明 ピアノ:吉川隆弘
ベートーヴェン／ピアノ協奏曲 第3番 ハ短調 作品37
ベートーヴェン／交響曲 第3番 変ホ長調 作品55「英雄」

主催:お問合せ:(公社)日本演奏連盟 TEL (03) 3539-5131

3/12(日) 2:30pm | NHK交響楽団 厚木公演

厚木市文化会館 大ホール

指揮:ケリリン・ウィルソン ヴァイオリン:HIMARI
チャイコフスキー／イタリヤ奇想曲 作品45
パガニーニ／ヴァイオリン協奏曲 第1番 二長調 作品6
プロコフィエフ／バレエ「ロメオとジュリエット」組曲 第2番

主催:(公財)厚木市文化振興財団 お問合せ:厚木市文化会館チケット予約センター TEL (046) 224-9999

3/18(土) 7:00pm | NHK交響楽団演奏会 西宮公演

兵庫県立芸術文化センター KOBELCO大ホール

指揮:ウラディーミル・フェドセーエフ ピアノ:小山実稚恵
ラフマニノフ／ピアノ協奏曲 第2番 ハ短調 作品18
チャイコフスキー／交響曲 第5番 ホ短調 作品64

主催:NHK神戸放送局／NHK交響楽団 お問合せ:NHK神戸放送局 TEL (078) 252-5000

3/19(日) 3:00pm | NHK交響楽団演奏会 和歌山公演

和歌山県民文化会館

出演者・曲目は3月18日と同じ

主催:NHK和歌山放送局／NHK交響楽団／和歌山県／(一財)和歌山県文化振興財団 お問合せ:NHK和歌山放送局 TEL (073) 424-8111

3/20(月) 7:00pm | NHK交響楽団演奏会 堺公演

フェニーチェ堺

出演者・曲目は3月18日と同じ

主催:NHK大阪放送局／NHK交響楽団／(公財)堺市文化振興財団 お問合せ:NHK大阪放送局 TEL (06) 6941-0431

3/21(火祝) 4:00pm**呉市制120周年記念事業 呉市文化振興財団設立40周年記念事業****呉信用金庫ホールネーミングライツパートナー記念事業****NHK交響楽団 呉公演2023**

呉信用金庫ホール(呉市文化ホール)

出演者・曲目は3月18日と同じ

主催:(公財)呉市文化振興財団／呉市／中国新聞社 お問合せ:呉信用金庫ホール TEL (0823) 25-7878

4/6(日) 3:00pm | 東京・春・音楽祭2023 東京春祭ワグナー・シリーズ vol.14

4/9(日) 3:00pm | 《ニュルンベルクのマイスタージンガー》(演奏会形式/字幕付)

東京文化会館 大ホール

指揮:マレク・ヤノフスキ ハンス・ザックス:エギルス・シリンス

ファイト・ボーグナー/夜警:アンドレアス・パウアー・カナバス クンツ・フォーゲルゲザンク:木下紀章

コンラート・ナハティガル:小林啓倫 ジクストウス・ベックメツサー:アドリアン・エレート

フリッツ・コートナー:ヨーゼフ・ワグナー バルタザール・ツォルン:大槻孝志 ウルリヒ・アイスリンガー:下村将太

アウクスティン・モーザー:高梨英次郎 ヘルマン・オルテル:山田大智 ハンス・シュワルツ:金子慧一

ハンス・フォルツ:後藤春馬 ワルター・フォン・シュトルチング:デイヴィッド・バット・フィリップ

ダーヴィット:ダニエル・ペーレ エヴァ:ヨハンニ・フォン・オオストラム マグダレーネ:カトリン・ヴンドザム

合唱:東京オペラシンガーズ

ワグナー/楽劇《ニュルンベルクのマイスタージンガー》(全3幕)(演奏会形式/字幕付)

主催:東京・春・音楽祭実行委員会 共催:NHK交響楽団 お問い合わせ:東京・春・音楽祭サポートデスク TEL (03) 6221-2016

5/3(水祝) 3:30pm | N響 ゴールデン・クラシック 2023

東京文化会館 大ホール

指揮:秋山和慶 ピアノ:田部京子

モーツァルト/歌劇「魔笛」序曲

モーツァルト/ピアノ協奏曲 第27番 変ロ長調 K. 595

モーツァルト/交響曲 第40番ト短調 K. 550

主催:MIYAZAWA & Co. お問い合わせ:サンライズプロモーション東京 TEL (0570) 00-3337

オーチャード定期

Bunkamura オーチャードホール

3/11(土) 3:30pm

出演者・曲目は3月12日と同じ

主催・お問い合わせ:Bunkamura TEL (03) 3477-3244

特別支援・特別協力・賛助会員

Corporate Membership

特別支援

岩谷産業株式会社	代表取締役社長 間島 寛
三菱地所株式会社	執行役社長 吉田 淳一
株式会社 みずほ銀行	頭取 加藤勝彦
公益財団法人 渋谷育英会	理事長 小丸成洋

特別協力

BMW ジャパン	代表取締役社長 Christian Wiedmann
全日本空輸株式会社	代表取締役社長 井上慎一
ヤマハ株式会社	代表執行役社長 中田卓也
株式会社 パレスホテル	代表取締役社長 吉原大介

賛助会員

・ 常陸宮	・ (株)アドバンストオールエフデザイン 代表取締役 田中 進	・ SMBC日興証券(株) 代表取締役社長 近藤雄一郎
・ (株)アートレイ 代表取締役 小森活美	・ イーソリューションズ(株) 代表取締役 佐々木経世	・ SCSK(株) 代表取締役 執行役員 社長 最高執行責任者 當麻隆昭
・ (株)アイシン 取締役社長 吉田守孝	・ EY新日本有限責任監査法人 理事長 片倉正美	・ (株)NHKアート 代表取締役社長 平田恭佐
・ (株)アインホールディングス 代表取締役社長 大谷喜一	・ (株)井口一世 代表取締役 井口一世	・ (一財)NHK インターナショナル 理事長 黄木紀之
・ 葵設備工事(株) 代表取締役社長 安藤正明	・ 池上通信機(株) 代表取締役社長 清森洋祐	・ NHK 営業サービス(株) 代表取締役社長 山田哲生
・ アサヒグループホールディングス(株) 代表取締役社長兼CEO 勝木敦志	・ 伊東国際特許事務所 所長 伊東忠重	・ (株)NHK エデュケーションル 代表取締役社長 荒木美弥子
・ (株)朝日工業社 代表取締役社長 高須康有	・ 井村屋グループ(株) 代表取締役会長(CEO) 浅田剛夫	・ (一財)NHK エンジニアリングシステム 理事長 黄木紀之
・ 朝日信用金庫 理事長 伊藤康博	・ (株)インターネットイニシアティブ 代表取締役会長 鈴木幸一	・ (株)NHK エンタープライズ 代表取締役社長 松本浩司
・ 有限責任 あずさ監査法人 理事長 森 俊哉	・ (株)ウイングツー 代表取締役 福田健二	・ (学)NHK 学園 理事長 篠原朋子
・ アットホーム(株) 代表取締役社長 鶴森康史	・ 内 聖美	

- ・(株)NHK グローバルメディアサービス
代表取締役社長 | 根本拓也
- ・(一財)NHK サービスセンター
理事長 | 黄木紀之
- ・(株)NHK出版
代表取締役社長 | 土井成紀
- ・(株)NHK テクノロジーズ
代表取締役社長 | 野口周一
- ・(株)NHK ビジネスクリエイティブ
代表取締役社長 | 石原勉
- ・(株)NHK プロモーション
代表取締役社長 | 有吉伸人
- ・(株)NHK文化センター
代表取締役社長 | 田中剛志
- ・(一財)NHK放送研修センター
理事長 | 黄木紀之
- ・(株)NTTドコモ
代表取締役社長 | 井伊基之
- ・(株)NTTファシリティアーズ
代表取締役社長 | 松原和彦
- ・ENEOS ホールディングス(株)
代表取締役社長 社長執行役員
齊藤 猛
- ・荏原冷熱システム(株)
代表取締役 | 庄野 道
- ・大崎電気工業(株)
代表取締役会長 | 渡辺佳英
- ・大塚ホールディングス(株)
代表取締役社長兼CEO | 樋口達夫
- ・(株)大林組
代表取締役社長 | 蓮輪賢治
- ・オールニッポンヘリコプター(株)
代表取締役社長 | 柳川 淳
- ・岡崎耕治
- ・カンオ計算機(株)
代表取締役社長 | 櫻尾和宏
- ・鹿島建設(株)
代表取締役社長 | 天野裕正
- ・(株)加藤電気工業所
代表取締役社長 | 加藤浩章
- ・角川歴彦
- ・(株)金子製作所
代表取締役 | 金子晴房
- ・カルチャー・エンタテインメント(株)
代表取締役 社長執行役員 | 中西一雄
- ・(株)関電工
取締役社長 | 仲摩俊男
- ・(株)かんぼ生命保険
取締役兼代表執行役社長 | 千田哲也
- ・キッコーマン(株)
取締役名譽会長 | 茂木友三郎
- ・(株)CURIOUS PRODUCTIONS
代表取締役 | 黒川幸太郎
- ・(株)教育芸術社
代表取締役 | 市川かおり
- ・(株)共栄サービス
代表取締役 | 半田 充
- ・(株)共同通信会館
代表取締役専務 | 梅野 修
- ・(一社)共同通信社
社長 | 水谷 亨
- ・キリンホールディングス(株)
代表取締役社長 | 磯崎功典
- ・キングレコード(株)
代表取締役社長 | 村上 潔
- ・(学)国立音楽大学
理事長 | 山田晴彦
- ・黒澤隆史
- ・京王電鉄(株)
代表取締役社長 社長執行役員
都村智史
- ・京成電鉄(株)
代表取締役社長 社長執行役員
小林敏也
- ・KDDI(株)
代表取締役社長 | 高橋 誠
- ・京浜急行電鉄(株)
取締役社長 | 川俣幸宏
- ・(医)社団 恒仁会
理事長 | 伊藤恒道
- ・(株)コーポレートディレクション
代表取締役 | 石井光太郎
- ・小林弘侑
- ・佐川印刷(株)
代表取締役会長 | 木下宗昭
- ・佐藤弘康
- ・サフラン電機(株)
代表取締役 | 藤崎貴之
- ・(株)サンセイ
代表取締役 | 富田佳佑
- ・サントリーホールディングス(株)
代表取締役社長 | 新浪剛史
- ・(株)ジェイ・ウィル・コーポレーション
代表取締役 | 佐藤雅典
- ・JCOM(株)
代表取締役社長 | 岩木陽一
- ・(株)シグマクス・ホールディングス
代表取締役社長 | 富村隆一
- ・(株)ジャパン・アーツ
代表取締役社長 | 二瓶純一
- ・(株)集英社
代表取締役社長 | 廣野真一
- ・(株)小学館
取締役会長 | 相賀昌宏
- ・(株)商工組合中央金庫
代表取締役社長 | 関根正裕
- ・庄司勇次朗・恵子
- ・ジョンソン・エンド・ジョンソン(株)
- ・(株)白川プロ
代表取締役 | 白川亜弥
- ・新赤坂クリニック
院長 | 松木隆央
- ・信越化学工業(株)
代表取締役会長 | 金川千尋
- ・新菱冷熱工業(株)
代表取締役社長 | 加賀美 猛
- ・(株)スカパーJSATホールディングス
代表取締役社長 | 米倉英一
- ・(株)菅原
代表取締役社長 | 古江訓雄
- ・スズキ(株)
代表取締役社長 | 鈴木俊宏
- ・住友商事(株)
代表取締役社長執行役員 CEO
兵頭誠之
- ・住友電気工業(株)
社長 | 井上 治
- ・セイコーグループ(株)
代表取締役会長兼グループCEO
兼グループCCO | 服部真二
- ・聖徳大学
学長 | 川並弘純
- ・西武鉄道(株)
取締役社長 | 喜多村樹美男
- ・関彰商事(株)
代表取締役会長 | 関 正夫

- ・(株)セノン
代表取締役 | 稲葉 誠
- ・(株)ソニー・ミュージックエンタテインメント
代表取締役社長 CEO | 村松俊亮
- ・損害保険ジャパン(株)
取締役社長 | 白川 儀一
- ・第一三共(株)
代表取締役社長兼 CEO | 眞鍋 淳
- ・第一生命保険(株)
代表取締役社長 | 稲垣精二
- ・ダイキン工業(株)
取締役社長 | 十河政則
- ・大成建設(株)
代表取締役社長 | 相川善郎
- ・大日コーポレーション(株)
代表取締役社長兼グループCEO
鈴木忠明
- ・高砂熱学工業(株)
代表取締役社長 | 小島和人
- ・(株)ダク
代表取締役 | 福田浩二
- ・(株)竹中工務店
取締役執行役員社長 | 佐々木正人
- ・田中貴金属工業(株)
代表取締役社長執行役員
田中浩一朗
- ・田原 昇
- ・チャンネル銀河(株)
代表取締役社長 | 林田真由
- ・中央日本土地建物グループ(株)
代表取締役社長 社長執行役員
三宅 潔
- ・中外製薬(株)
代表取締役社長 | 奥田 修
- ・テルウェル東日本(株)
代表取締役社長 | 谷 誠
- ・(株)電通
代表取締役社長執行役員 | 樽谷典洋
- ・(株)テンポプリモ
代表取締役 | 中村聡武
- ・(株)TOKAIホールディングス
代表取締役社長 | 小栗勝男
- ・東海旅客鉄道(株)
代表取締役社長 | 金子 慎
- ・東急(株)
取締役社長 | 高橋和夫

- ・(株)東急文化村
代表取締役社長 | 中野哲夫
- ・東京海上日動火災保険(株)
取締役社長 | 広瀬伸一
- ・(株)東京交通会館
取締役社長 | 興野敦郎
- ・東信地所(株)
代表取締役 | 堀川利通
- ・東武鉄道(株)
取締役社長 | 根津嘉澄
- ・桐朋学園大学
学長 | 辰巳明子
- ・東邦ホールディングス(株)
代表取締役 | 有働 敦
- ・(株)東北新社
代表取締役社長 | 小坂恵一
- ・鳥取末広座(株)
代表取締役社長 | 西川八重子
- ・(-期)凸版印刷三幸会
代表理事 | 金子眞吾
- ・トヨタ自動車(株)
代表取締役社長 | 豊田章男
- ・内外施設工業グループホールディングス(株)
代表取締役社長 | 林 克昌
- ・中銀グループ
代表 | 渡辺蔵人
- ・中山武之
- ・日鉄興和不動産(株)
代表取締役社長 | 今泉泰彦
- ・日東紡績(株)
取締役 代表執行役員社長 | 辻 裕一
- ・(株)日本アーティスト
代表取締役 | 幡野菜穂子
- ・日本ガイシ(株)
取締役社長 | 小林 茂
- ・(株)日本国際放送
代表取締役社長 | 高尾 潤
- ・日本運連(株)
代表取締役社長 | 堀切 智
- ・日本電気(株)
代表取締役執行役員社長 | 森田隆之
- ・(-期)日本放送協会共済会
理事長 | 谷弘聡史
- ・日本郵政(株)
取締役兼代表執行役員社長 | 増田寛也

- ・(株)ニフコ
代表取締役会長 | 山本利行
- ・野田浩一
- ・野村ホールディングス(株)
代表執行役員社長 | 奥田健太郎
- ・パナソニック ホールディングス(株)
代表取締役 社長執行役員 グループCEO
楠見雄規
- ・(有)パルフェ
代表取締役 | 伊藤良彦
- ・東日本電信電話(株)
代表取締役社長 | 澁谷直樹
- ・(株)日立製作所
執行役員社長 | 小島啓二
- ・(株)フォトロン
代表取締役 | 瀧水 隆
- ・福田三千男
- ・富士通(株)
代表取締役社長 | 時田隆仁
- ・富士通フロンテック(株)
代表取締役社長 | 川上博亨
- ・古川建築音響研究所
所長 | 古川宣一
- ・(株)朋栄ホールディングス
代表取締役 | 清原慶三
- ・(株)放送衛星システム
代表取締役社長 | 角 英夫
- ・(公)助放送文化基金
理事長 | 濱田純一
- ・ホクト(株)
代表取締役 | 水野雅義
- ・(株)ポケモン
代表取締役社長 | 石原恒和
- ・前田工織(株)
代表取締役社長 | 前田尚宏
- ・丸紅(株)
代表取締役社長 | 柿木真澄
- ・溝江建設(株)
代表取締役社長 | 溝江 弘
- ・三井住友海上火災保険(株)
代表取締役 | 松曳真一郎
- ・(株)三井住友銀行
頭取 | 高島 誠
- ・三井住友信託銀行(株)
取締役社長 | 大山一也
- ・三菱商事(株)
代表取締役社長 | 中西勝也

- ・三菱電機(株)
執行役社長 | 漆間 啓
- ・(株)緑山スタジオ・シティ
代表取締役社長 | 難波一弘
- ・三橋産業(株)
代表取締役会長 | 三橋洋之
- ・三原穂積
- ・(株)ミロク情報サービス
代表取締役社長 | 是枝周樹
- ・(学)武蔵野音楽学園
理事長 | 福井直敬
- ・(株)明治
代表取締役社長 | 松田克也
- ・(株)明電舎
取締役社長 | 三井田 健
- ・(株)目の眼
代表 | 櫻井 恵
- ・(株)モメンタム ジャパン
代表取締役社長 | 三溝広志

- ・森ビル(株)
代表取締役社長 | 辻 慎吾
- ・森平舞台機構(株)
代表取締役 | 森 健輔
- ・矢下茂雄
- ・山田産業(株)
代表取締役 | 山田裕幸
- ・(株)山野楽器
代表取締役社長 | 山野政彦
- ・(株)ヤマハミュージックジャパン
代表取締役社長 | 押木正人
- ・ユニオンツール(株)
代表取締役会長 | 片山貴雄
- ・米澤文彦
- ・(株)読売広告社
代表取締役社長 | 菊地英之
- ・(株)読売旅行
代表取締役社長 | 坂元 隆

- ・料亭 三長
代表 | 高橋千善
- ・(株)リンレイ
代表取締役社長 | 鈴木信也
- ・(有)ルナ・エンタープライズ
代表取締役 | 戸張誠二
- ・ルーム(株)
代表取締役社長 社長執行役員
松本 功
- ・YKアクロス(株)
代表取締役社長 | 中野健次
- ・渡辺敦郎

(五十音順、敬称略)

NHK交響楽団への ご寄付について

NHK交響楽団は多くの方々の貴重なご寄付に支えられて、積極的な演奏活動を展開しております。定期公演の充実をはじめ、著名な指揮者・演奏家の招聘、意欲あふれる特別演奏会の実現、海外公演の実施など、今後も音楽文化の向上に努めてまいりますので、みなさまのご支援をよろしくお願い申し上げます。

「賛助会員」入会のご案内

NHK交響楽団は賛助会員制度を設け、上記の方々にご支援をいただいております。当団の経営基盤を支える大きな柱となっております。会員制度の内容は次の通りです。

■当団は「公益財団法人」として認定されています。

当団は芸術の普及向上を行うことを主目的とする法人として「公益財団法人」の認定を受けているため、当団に対する寄付金は税制上の優遇措置の対象となります。

1. 会費：一口50万円(年間)
2. 期間：入会は随時、年会費をお支払いいただいたときから1年間
3. 入会の特典：『フィルハーモニー』、『年間パンフレット』、『第9』演奏会プログラム等にご芳名を記載させていただきます。
N響主催公演のご鑑賞の機会を設けます。

遺贈のご案内

資産の遺贈(遺言による寄付)を希望される方々のご便宜をお図りするために、NHK交響楽団では信託銀行が提案する「遺言信託制度」をご紹介します(三井住友信託銀行と提携)。相続財産目録の作成から遺産分割手続の実施まで、煩雑な相続手続を信託銀行が有償で代行いたします。まずはN響寄付担当係へご相談ください。

お問い合わせ

公益財団法人 NHK交響楽団「寄付担当係」

TEL：03-5793-8120

NHK交響楽団

首席指揮者：ファビオ・ルイーヂ

名誉音楽監督：シャルル・デュトワ

桂冠名誉指揮者：ヘルベルト・ブロムシュテット

桂冠指揮者：ウラディーミル・アシュケナーヂ

名誉指揮者：パーヴォ・ヤルヴィ

正指揮者：外山雄三、尾高忠明

第1コンサートマスター：篠崎史紀

コンサートマスター：伊藤亮太郎

ゲスト・コンサートマスター：白井 圭

ゲスト・アシスタント・コンサートマスター：郷古 廉

第1ヴァイオリン

- 青木 調
- 字根京子
- 大鹿由希
- 倉富亮太
- 後藤 康
- 小林玉紀
- 高井敏弘
- 猶井悠樹
- 中村弓子
- 降旗貴雄
- 松田拓之
- 宮川奈々
- 村尾隆人
- 山岸 努
- 横島礼理
- 横溝耕一

第2ヴァイオリン

- ◎大宮臨太郎
- ◎森田昌弘
- 木全利行
- 齋藤麻衣子
- 嶋田慶子
- 白井 篤
- 田中晶子
- 坪井きらら
- 丹羽洋輔
- 平野一彦
- 船木陽子
- 俣野賢仁
- 三又治彦
- 矢津将也

山田慶一
横山俊朗
米田有花

ヴィオラ

- ◎佐々木 亮
- ◎村上淳一郎
- ☆中村翔太郎
- 小野 聡
- 小島茂隆
- 坂口弦太郎
- 谷口真弓
- 飛澤浩人
- 中村洋乃理
- 松井直之
- 三国レイチェル由依
- # 御法川雄矢
- 村松 龍
- 山田雄司

チェロ

- ◎辻本 玲
- ◎藤森亮一
- 市 寛也
- 小島幸法
- 三戸正秀
- 中 実穂
- 西山健一
- 藤村俊介
- 宮坂拓志
- 村井 将
- 山内俊輔
- 渡邊方子

コントラバス

- ◎吉田 秀
- ☆市川雅典
- ☆西山真二
- 稲川永示
- 岡本 潤
- 今野 京
- 佐川裕昭
- 本間達朗
- 矢内陽子

フルート

- ◎甲斐雅之
- ◎神田寛明
- 梶川真步
- 菅原 潤
- 中村淳二

オーボエ

- ◎青山聖樹
- ◎吉村結実
- 池田昭子
- 坪池泉美
- 和久井 仁

クラリネット

- ◎伊藤 圭
- ◎松本健司
- # 山根孝司
- 和川聖也

ファゴット

- ◎宇賀神広宣
- ◎水谷上総
- 佐藤由起
- 菅原恵子
- 森田 格

ホルン

- ◎今井仁志
- 石山直城
- 勝俣 泰
- 木川博史
- 野見山和子

トランペット

- ◎菊本和昭
- ◎長谷川智之
- 安藤友樹
- 山本英司

トロンボーン

- ◎古賀 光
- ◎新田幹男
- 池上 亘
- 黒金寛行
- 吉川武典

テューバ

- 池田幸広

ティンパニ

- ◎植松 透
- ◎久保昌一

打楽器

- 石川達也
- 黒田英実
- 竹島悟史

ハープ

- 早川りさこ

ステージ・マネージャー

- 徳永匡哉
- 黒川大亮

ライブラリアン

- 沖 あかね
- 木村英代

(五十音順、◎首席、☆首席代行、○次席、□次席代行、#インスペクター)

曲目解説執筆者

太田峰夫(おおた みねお)

京都市立芸術大学教授。おもな研究領域は20世紀ハンガリー音楽史、とりわけバルトークの音楽。音楽専門誌への寄稿のほか、著書に『バルトーク 音楽のプリミティヴィズム』、共訳書に『バルトーク音楽論選』、論文に『音楽のナショナリズムとその周囲——ヨーゼフ・ヨアヒムとハンガリーとの関係を中心に』など。

小宮正安(こみや まさやす)

横浜国立大学大学院都市イノベーション研究院・都市科学部教授。専門はヨーロッパ文化史、ドイツ文学。著書に『コンスタンツェ・モーツァルト——「悪妻」伝説の虚実』

『ヨハン・シュトラウス——ワルツ王と落日のウィーン』、訳書に『ウィーン・フィル コンサートマスターの楽屋から』『チャールズ・バーニー音楽見聞録(ドイツ篇)』など。

中田朱美(なかつ あけみ)

国立音楽大学准教授。専門はロシア・ソ連音楽。共訳書にフランシス・マース著『ロシア音楽史——《カマーリンスカヤ》から《バービィ・ヤール》まで』、共著書に『楽譜でわかる20世紀音楽』『ロシア音楽事典』のほか、論文に『ソ連時代におけるボリショイ劇場のオペラ上演状況』など。

(五十音順、敬称略)

お詫びと訂正

本誌『Philharmony』2022年12月号にて誤りがございました。お詫び申し上げますとともに、以下のとおり訂正をさせていただきます。

24頁「N響百年史」の右段下から4行目
[誤] 楽壇 [正] 楽団

いつでも どこでも、NHKの番組を。

NHK+



利用登録はこちらから

<https://plus.nhk.jp/info/>

総合・Eテレの番組を

スマホやタブレット・
パソコン・テレビ^{※1}で
放送から1週間^{※2} 何度でも

お楽しみいただけます!

メールアドレスとパスワードを入力するだけで
すぐに見逃し配信をご覧いただけます

※放送要権契約のある世帯の方が追加のご負担なく利用できるサービスです

アプリで便利に!

スマホやPCでNHKラジオが楽しめる!

NHK ラジオ らじる★らじる

スマートフォンやパソコンでラジオ第1(R1)・ラジオ第2(R2)・NHK-FMの放送をリアルタイムで聴くことができます。スマートフォンならアプリでもお楽しみいただけます。 <http://www.nhk.or.jp/radio>

放送が終わっても
楽しめる!

聴き逃し

放送終了後1週間 / 聴き逃し対象番組のみ



スマートフォン用アプリはこちらから

みなさまの声をお聞かせください！

インターネットアンケートにご協力ください

ご鑑賞いただいた公演のご感想や、N響の活動に対するみなさまのご意見を、ぜひお寄せください。
ご協力をお願いいたします。

アクセス方法

STEP

1



スマートフォンで右の
QRコードを読み取る。
またはURLを入力
[https://www.nhkso.or.jp/
enquete.html](https://www.nhkso.or.jp/enquete.html)



STEP

2



開いたリンク先からアンケートサイトに入る

STEP

3



アンケートに答えて(約5分)、
「送信」を押して完了！

ほかにもご意見・ご感想がありましたらお寄せください。

定期公演会場の主催者受付にお持ちいただくか、

〒108-0074 東京都港区高輪2-16-49 NHK交響楽団 フィルハーモニー編集までお送りください。

ふりがな		年齢	歳
お名前		TEL	

個人情報の取り扱いについて

ご提供いただいた個人情報は、必要な場合、ご記入者様への連絡のみに使用し、他の目的に使用いたしません。

NHK SYMPHONY ORCHESTRA, TOKYO

Chief Conductor: Fabio Luisi

Music Director Emeritus: Charles Dutoit

Honorary Conductor Laureate: Herbert Blomstedt

Conductor Laureate: Vladimir Ashkenazy

Honorary Conductor: Paavo Järvi

Permanent Conductors: Yuzo Toyama, Tadaaki Otaka

First Concertmaster: Fuminori Maro Shinozaki

Concertmaster: Ryotaro Ito

Guest Concertmaster: Kei Shirai

Guest Assistant Concertmaster: Sunao Goko

1st Violins

- Shirabe Aoki
- Kyoko Une
- Yuki Oshika
- Ryota Kuratomi
- Ko Goto
- Tamaki Kobayashi
- Toshihiro Takai
- Yuki Naoi
- Yumiko Nakamura
- Takao Furihata
- Hiroyuki Matsuda
- Nana Miyagawa
- Ryuto Murao
- Tsutomu Yamagishi
- Masamichi Yokoshima
- Koichi Yokomizo

2nd Violins

- Rintaro Omiya
- Masahiro Morita
- Toshiyuki Kimata
- Maiko Saito
- Keiko Shimada
- Atsushi Shirai
- Akiko Tanaka
- Kirara Tsuboi
- Yosuke Niwa
- Kazuhiko Hirano
- Yoko Funaki
- Kenji Matano
- Haruhiko Mimata
- Masaya Yazu
- Yoshikazu Yamada
- Toshiro Yokoyama
- Yuka Yoneda

Violas

- Ryo Sasaki

- Junichiro Murakami
- ☆ Shotaro Nakamura
- Satoshi Ono
- Shigetaka Obata
- Gentaro Sakaguchi
- Mayumi Taniguchi
- Hiroto Tobisawa
- Hironori Nakamura
- Naoyuki Matsui
- Rachel Yui Mikuni
- # Yuya Minorikawa
- Ryo Muramatsu
- Yuji Yamada

Cellos

- Rei Tsujimoto
- Ryoichi Fujimori
- Hiroya Ichi
- Yukinori Kobatake
- Masahide Sannoh
- Miho Naka
- Ken'ichi Nishiyama
- Shunsuke Fujimura
- Hiroshi Miyasaka
- Yuki Murai
- Shunsuke Yamanouchi
- Masako Watanabe

Contrabasses

- Shu Yoshida
- ☆ Masanori Ichikawa
- ☆ Shinji Nishiyama
- Eiji Inagawa
- Jun Okamoto
- Takashi Konno
- Hiroaki Sagawa
- Tatsuro Honma
- Yoko Yanai

Flutes

- Masayuki Kai
- Hiroaki Kanda
- Maho Kajikawa
- Jun Sugawara
- Junji Nakamura

Oboes

- Satoki Aoyama
- Yumi Yoshimura
- Shoko Ikeda
- Izumi Tsuboike
- Hitoshi Wakui

Clarinets

- Kei Ito
- Kenji Matsumoto
- # Takashi Yamane
- Seiya Wakawa

Bassoons

- Hironori Ugajin
- Kazusa Mizutani
- Yuki Sato
- Keiko Sugawara
- Itaru Morita

Horns

- Hitoshi Imai
- Naoki Ishiyama
- Yasushi Katsumata
- Hiroshi Kigawa
- Kazuko Nomiya

Trumpets

- Kazuaki Kikumoto

- Tomoyuki Hasegawa
- Tomoki Ando
- Eiji Yamamoto

Trumpbones

- Hikaru Koga
- Mikio Nitta
- Ko Ikegami
- Hiroyuki Kurogane
- Takenori Yoshikawa

Tuba

- Yukihiro Ikeda

Timpani

- Toru Uematsu
- Shoichi Kubo

Percussion

- Tatsuya Ishikawa
- Hidemi Kuroda
- Satoshi Takeshima

Harp

- Risako Hayakawa

Stage Manager

- Masaya Tokunaga
- Daisuke Kurokawa

Librarian

- Akane Oki
- Hideyo Kimura

(○ Principal, ☆ Acting Principal, ○ Vice Principal, □ Acting Vice Principal, # Inspector)

PROGRAM

A**Concert No.1974****NHK Hall****January****14(Sat) 6:00pm****15(Sun) 2:00pm**

conductor	Tugan Sokhiev
piano	Haochen Zhang
concertmaster	Fuminori Maro Shinozaki

**Johannes Brahms
Piano Concerto No. 2 B-flat Major
Op. 83 [47']**

- I Allegro non troppo
- II Allegro appassionato
- III Andante
- IV Allegretto grazioso

— intermission (20 minutes) —

**Ludwig van Beethoven
Symphony No. 4 B-flat Major
Op. 60 [38']**

- I Adagio – Allegro vivace
- II Adagio
- III Allegro vivace – Un poco meno allegro
- IV Allegro ma non troppo

- All performance durations are approximate.

Artist Profiles

Tugan Sokhiev, conductor

Upon the Russian invasion of Ukraine, Tugan Sokhiev voluntarily resigned the position of Music Director of the Orchestre national du Capitole de Toulouse, which he had held since 2008, as well as the position of Music Director and Principal Conductor of the Bolshoi Theater in Moscow, which he assumed in 2014.

He was born in Vladikavkaz in North Ossetia of the former Soviet Union in 1977, and studied conducting under the legendary tutors Ilya Musin and Yuri Temirkanov at the St. Petersburg Conservatory. He garnered the world attention in 1999 when he won the highest prize in the conducting section of the International Prokofiev Competition (no 1st prize was awarded). Through his work at the Mariinsky Theatre, he was also trained by Valery Gergiev. He has been active in both orchestral concerts and operatic works, and has taken a stunning approach when conducting Russian works whilst at the same time having a reputation for conducting French music. With the Deutsche Symphonie-Orchester Berlin for which he served as Music Director and Principal Conductor from 2012 to 2016, he achieved a profound

resonance playing German repertoire. Thus he is a conductor with multifarious talents despite being still in his mid-40s.

He first worked with the NHK Symphony Orchestra in October 2008, then first conducted its subscription series in November 2013. Since then he has frequently returned to its podium, conducting not only Russian works, but also French, German repertoire and, furthermore, works of Takemitsu. As he has had a good rapport with the orchestra in recent years, the coming collaboration is much anticipated.

Haochen Zhang, piano



© Gerdinne Chen

Talented pianist Haochen Zhang was born in Shanghai in 1990, studied at the Shanghai Conservatory of Music and the Shenzhen Arts School, where he was tutored by Dan Zhaoyi before continuing at the Curtis Institute of Music in Philadelphia under Gary Graffman, the renowned tutor. In 2009, he won the Gold Medal at the 13th Van Cliburn International Piano Competition together with Japan's Nobuyuki Tsujii, and became the youngest winner in the history of the competition. Since then, he performed not only in his homeland but also started his international career by appearing with the Münchner Philharmoniker under Lorin Maazel and the BBC Proms to name a few, thus he has been actively performing in Europe and the U.S. He has visited Japan frequently, for his recital tour in 2017, and for the performance of Rakhmaninov's Piano Concerto No. 2 with the Philadelphia Orchestra conducted by Yannick Nézet-Séguin in 2019. He specializes in works of Liszt and Prokofiev, which is natural for a young artist who is very confident in his technique. At the same time, he shows multifaceted intelligence in his program making, and one such example is the recording he has made featuring works of Schumann, Brahms and Janáček. As his visit to Tokyo in January 2022 was not realized due to the pandemic, this is going to be his long-awaited first collaboration with the NHK Symphony Orchestra. Under the baton of Tugan Sokhiev, he will perform Brahms Piano Concerto No.2, a difficult piano work in which, I am sure, his true talent will be fully displayed.

[Tugan Sokhiev by Nobuyasu Matsuoka, music critic, Haochen Zhang by Takaakira Aosawa, music critic]

Program Notes | Kumiko Nishi

Johannes Brahms (1833–1897)

Piano Concerto No. 2 B-flat Major Op. 83

Brahms' two piano concertos were born more than twenty years apart. During this period, he managed to complete his First and Second Symphonies standing in awe of Beethoven, and also the grand *Ein deutsches Requiem* (*A German Requiem*) as well as some masterpieces for piano. Brahms was, in a word, a well-matured composer when he tackled the Second Piano Concerto.

He visited Italy for the first time in the spring of 1878. No sooner had he come home than he started to sketch this concerto. Then after composing the Violin Concerto (1878) and

enjoying his second stay in Italy in March 1881, he finished the Second Piano Concerto in July. Its first public performance took place the same year in Budapest with Brahms as soloist to receive high praise.

The work's distinct feature is its exceptional length, mainly because unconventionally, it has four movements with a scherzo like a symphony, rather than following the compact, classical three-movement design. In contrast, Brahms' orchestra is not overlarge here. Moreover, trumpets and timpani keep a complete silence after Scherzo ends. At the start of the first sonata movement, horn solo's serene call (the first theme) is beautifully responded by piano, then violins reveal the expressive second theme in D minor. The next passionate Scherzo is in A-B-A form. Its dynamic main theme given by piano enters immediately into a dialogue with strings. Opened with a romantic song by cello solo, the Andante movement is also in A-B-A form. The sunny fourth movement in rondo form recalls us to the composer's memories in Italy with its lilting main theme introduced by piano. This finale sometimes evokes Hungarian gypsy dances Brahms was fond of.

Ludwig van Beethoven (1770–1827)

Symphony No. 4 B-flat Major Op. 60

Although every work of Beethoven is not unimportant, most experts agree that his odd numbered symphonies are more audacious and tense than his relatively moderate even numbered ones. And the fact that his Fourth is not the exception was foregrounded by Schumann, a great admirer of the work, referring to it as “a slender Greek maiden between two Nordic giants,” namely the revolutionary Third (*Eroica*) and the intensely dramatic Fifth (*Destiny*).

Beethoven dedicated the Fourth to the Silesian Count Franz von Oppersdorff. In 1806 when the composer visited the nobleman, the latter's private orchestra played the former's Second—thus an even numbered symphony—in welcome. As it was Oppersdorff's favorite work, the wealthy music lover commissioned the guest to write a new one for him. Beethoven subsequently completed the Fourth the same year, but some say that it had been already finished when he received the commission.

The Fourth's home key is B-flat major as with Brahms' Second Piano Concerto. However, Beethoven begins the work with a mysterious, harmonically obscured introduction following the example of his former teacher Haydn. With a dramatic crescendo, this preface flows into the main vivacious section of the first movement in sonata form. Its crisp first theme is given by strings, while the floaty second theme is firstly entrusted to the winds. The lyrical and sometimes plaintive character of the next slow movement is possessed with the dotted rhythm introduced by the second violins at the start. The following scherzo-like energetic movement is cast in A-B-A-B-A form. It is, rhythmically speaking, highly ingenious. The finale in sonata form is not seemingly a sonata, as the first theme's perpetual motion with sixteenth notes dominates the movement throughout. The end is prepared wittily by pregnant silences and a brief slow-motion moment.

Kumiko Nishi

English-French-Japanese translator based in the USA. Holds a MA in musicology from the University of Lyon II, France and a BA from the Tokyo University of the Arts (Geidai).

B

Concert No.1976

Suntory Hall

January

25 (Wed) 7:00pm

26 (Thu) 7:00pm

conductor Tugan Sokhiev | for a profile of Tugan Sokhiev, see p. 42

viola Amihai Grosz

concertmaster Kei Shirai

Béla Bartók**Viola Concerto (Serly Version) [20']**

- I Moderato
- II Adagio religioso
- III Allegro vivace

— intermission (20 minutes) —

Maurice Ravel***Daphnis et Chloé*****Suite No. 1 [12']**

- I Nocturne
- II Interlude
- III Danse guerrière

Suite No. 2 [18']

- I Lever du jour
- II Pantomime
- III Danse générale

Claude Debussy***La mer, three symphonic sketches***

[25']

- I De l'aube à midi sur la mer
- II Jeux des vagues
- III Dialogue du vent et de la mer

- All performance durations are approximate.

Artist Profile**Amihai Grosz, viola**

© Marco Borggreve

Born in Jerusalem in 1979, Amihai Grosz started learning violin at the age of five, then switched to viola when he was eleven years old. He studied under David Chen in Jerusalem, then Tabea Zimmermann in Frankfurt and Berlin. Together with his colleagues, he formed the Jerusalem Quartet in 1995, which has performed at major concert halls in the world including the Tonhalle Zürich, Wigmore Hall, London and the Royal Concertgebouw,

Amsterdam. The quartet won the Chamber category of the BBC Music Magazine Awards and the ECHO Classic Award for its recordings.

B

25 & 26, JAN. 2023

He became First Principal Violist with the Berliner Philharmoniker in 2010, and started a new career. In recent years, he has also been keen to perform as a soloist and has worked with renowned orchestras including the West-Eastern Divan Orchestra under the baton of Daniel Barenboim. This is the first collaboration with the NHK Symphony Orchestra. By his performance of Bartók's Viola Concerto, he will fully display the charm of the viola as a solo instrument. He performs on the 1570 'Gasparo da Salò.'

[Amihai Grosz by Yoichi Iio, music journalist]

Program Notes | Kumiko Nishi

Béla Bartók (1881–1945)

Viola Concerto (Serly Version)

Bartók left Europe in 1940 to protest the actions of the Nazis. He, terminally ill and destitute, spent his last years in New York and died there in 1945. The four works (two of which are incomplete) penned during this difficult period are surprisingly amazing and inspiring.

These four include the Viola Concerto of which Bartók left us only the sketches. The solo part was almost finished but the orchestra part was far from completion, therefore his friend Tibor Serly, Hungarian composer and violist, reconstructed the work. This version was premiered in 1949 by the violist William Primrose who initially commissioned Bartók to write the concerto. The opening movement in flexible sonata form starts with the viola's monologue over reserved string beats. This monologue will be recalled near the end of the expressive slow movement. Then the effervescent finale begins without pause. Its virtuosic primary theme is in the Rumanian dance style, and the slower secondary theme has also a folkly tint.

Maurice Ravel (1875–1937)

***Daphnis et Chloé*, suite Nos. 1 & 2**

The Russian impresario Sergei Diaghilev (1872–1929) and his ballet company, Ballets Russes, created a lively sensation in Paris in the early twentieth century. Their big smashes were *Firebird*, *Petrushka* and *The Rite of Spring* in collaboration with Stravinsky. Ravel was also among the artists involved in Diaghilev's cutting-edge projects to leave us one of the most important orchestral repertoires, i. e. the two suites from the ballet *Daphnis et Chloé* (*Daphnis and Chloe*) he scored for.

The ballet was premiered in 1912. The scenario, divided in three parts, is an adaptation of an idyllic love story written by the ancient Greek author Longus. It is based on the Greek legend of young Daphnis and Chloe, both brought up on the island of Lesbos. Although the set designed by Léon Bakst for the premiere was influenced by Hellenism, Ravel turned away from any archaic idiom to represent the Greece that "the French painters at the end of the eighteenth century imagined" (his own words).

Suite No. 1 consists of three excerpts from the first and second parts of the ballet. After Pirates abduct Chloe, *Nocturne* lets Nymphs dance so unconscious Daphnis is revived. Placid

Interlude is followed by *Danse guerrière (Battle Dance)*, a barbaric dance of Pirates. Suite No. 2 is almost identical to the third part of the ballet. *Lever du jour (Daybreak)* depicts the grotto of Nymphs at dawn. Then Chloe, freed, and Daphnis are reunited. At *Pantomime*, Daphnis as the god Pan and Chloe as the nymph Syrinx mime. The flowing and elegant flute solo suggests the panpipes (or syrinx), the attribute of Pan. Then the young couple marry. *Danse générale (General Dance)* is the euphoric denouement of the ballet. Ravel, a.k.a. “Magician of Orchestration,” meticulously and inventively brings out every instrument’s infinite potential to make the ballet sound truly gorgeous and evocative.

Claude Debussy (1862–1918)

La mer, three symphonic sketches

By leaving the traditional language in terms of harmony, form and tone color, Debussy had a great influence on music history in the 20th century. *La mer (The Sea)* is often described as a representative example of Impressionist music, despite his dislike of the label. As a reaction against excessively emotional music of the late Romantic period, Impressionism in music is characterized by more objective approaches and suggestion of atmosphere or feeling.

A great lover of the ocean, Debussy confessed in a letter, “I was destined for the lovely career of a sailor, and only a quirk of fate led me to another path.” Completed in 1905, *La mer* paints a vivid picture of a mighty ocean changing every moment as the subtitle (*Three Symphonic Sketches*) hints. Nevertheless, this music rises above descriptive, programmatic music. Indeed, the novelty of the work resides in its rigid but unconventional structure with cyclic themes (mentioned below) and a minute motivic manipulation, which is the reason why it is often compared to a modern three-movement symphony.

De l’aube à midi sur la mer (From Dawn to Noon on the Sea) has a harmonically ambiguous introduction where two cyclic themes (recurrent elements unifying the whole work) are heard: a sliding-upward motif of two notes repeated by cellos at the beginning, and a fanfare-like wavy melody revealed softly by English horn and trumpet. The main section in D-flat major becomes animated gradually and reaches its climax with brilliant brass. *Jeux de vagues (Play of the Waves)* is an intricately constructed yet jolly scherzo, fitful like water in constant change. *Dialogue du vent et de la mer (Dialogue of the Wind and the Sea)* is a turbulent dialogue of which the main theme, a chromatically rising motif, is introduced by low strings at the start. In addition, this movement recalls the two cyclic themes in different ways with different instrumentation. The triptych ends at a high volume, which is unusual for Debussy, with the magnificent coda animated by the cyclic themes.

Kumiko Nishi

For a profile of Kumiko Nishi, see p. 44

PROGRAM

C

Concert No.1975

NHK Hall

January

20(Fri) 7:30pm

21(Sat) 2:00pm

conductor

Tugan Sokhiev | for a profile of Tugan Sokhiev, see p. 42

concertmaster

Kei Shirai

[Pre-concert Chamber Music – Exclusive to Program C]

Friday 20th from 6:45pm / Saturday 21st from 1:15pm

Hitoshi Wakui(ob.), Rintaro Omiya(vn.), Tamaki Kobayashi(vn.), Yuya Minorikawa(va.), Hiroshi Miyasaka(vc.), Tatsuro Honma(cb.)
Morricone/Yuya Minorikawa / *Gabriel's Oboe* (from *The Mission*)

Kapustin / String Quartet No. 1 Op. 88 – 4th Movement

Joe Hisaishi / Yuya Minorikawa / *Carrying You* (from *Castle in the Sky*)

* You may enter and leave as you please during the performance. * Enjoy chamber music from your own seat.

Sergei Rakhmaninov

***The Rock*, fantasy, Op. 7 [13']**

Peter Ilich Tchaikovsky

**Symphony No. 1 G Minor Op. 13,
Winter Dreams [44']**I Dreams of a Winter Journey: Allegro
tranquilloII Land of Desolation, Land of Mist:
Adagio cantabile ma non tanto

III Scherzo: Allegro scherzando giocoso

IV Finale: Andante lugubre – Allegro maestoso

- This concert will be performed with no intermission.

- All performance durations are approximate.

Program Notes | Kumiko Nishi

Sergei Rakhmaninov (1873–1943)

***The Rock*, fantasy, Op. 7**

Rakhmaninov composed *The Rock* in the summer of 1893. A notable episode says the young composer met his idol Tchaikovsky and played this new piece on the piano for him who, greatly impressed, promised to conduct it. Sadly, this never happened due to the maestro's

abrupt death in November 1893.

The Rock was inspired by Chekhov's novel *On the Road* having an epigraph (*A golden cloud rested through a night / Upon the breast of the gigantic rock*) from Lermontov's poem. Chekhov's sorrowful story is set in a snowy night when a man and a woman meet and understand each other at an inn but they make their adieu the next morning. Here the "rock" stands for the snow-covered man left alone. Rakhmaninov seems to freely depict the story with his shimmering orchestration. The sinister opening theme entrusted to bassoons and strings, together with the fluttering feminine melody given by flute, leads to the stormy brassy culmination.

Peter Ilich Tchaikovsky (1840–1893)

Symphony No. 1 G Minor Op. 13, *Winter Dreams*

For many composers after Beethoven, writing the "first" symphony has been a synonym with confronting a nemesis. And so was for Tchaikovsky. A fresh graduate from the Saint Petersburg Conservatory, the young composer moved to Moscow in January 1866 to start teaching at the newly founded Moscow Conservatory some months later. He set to work on his First Symphony in March and spent three months toiling around the clock to complete it. However, he had to alter it taking tart advice from his senior musicians including Anton Rubinstein. The 1868 premiere of the full work was a success, but again Tchaikovsky revised it in 1874 to give birth to the third version which is performed at present.

To this symphony born after a long and hard labor, Tchaikovsky gave the picturesque title *Winter Dreams*. Also, the programmatic subtitles of the first two movements (*Dreams of a Winter Journey* and *Land of Desolation, Land of Mist*) are by him.

Abundant in tuneful melodies, the symphony consists of four movements. The opening Allegro is a fantastical sonata. Both the airy first theme exposed by flute and bassoon and the warm D-major second theme given by clarinet have a folksy, charming outline. The next slow movement is a rondo (A–B–A–B–A) preceded by an ethereal introduction. The A section's pensive theme first appears with oboe, before being entrusted to cellos and then horns, so to say, in the manner of variation. This theme is derived from Tchaikovsky's early overture *The Storm* (1864). The next fluent Scherzo is in A–B–A form. The lightly bouncing main theme in C minor is revealed by violins divided in four parts, while the major-mode trio (central) section's graceful melody is in the waltz style. The finale begins with the slow, lugubrious introduction where bassoons and then violins quote the Russian folk song *I'm planting some flowers, little one*. Then comes next the main lively section in sonata form. Its valiant second theme introduced by bassoons and violas is also based on the folk song which is to be recalled gloriously by the whole orchestra during the dazzling conclusion.

Kumiko Nishi

For a profile of Kumiko Nishi, see p. 44

The Subscription Concerts Program 2022–23

2023 01	A	Concert No. 1974	Brahms Piano Concerto No. 2 B-flat Major Op. 83 Beethoven Symphony No. 4 B-flat Major Op. 60	Ordinary Youth S 8,900 S 4,000 A 7,400 A 3,500 B 5,800 B 2,800 C 4,700 C 2,100 D 3,700 D 1,500 E 2,000 E 1,000
		January 14 (Sat) 6:00pm 15 (Sun) 2:00pm	Tugan Sokhiev, conductor Haochen Zhang, piano	
		NHK Hall		
2023 01	B	Concert No. 1976	Bartók Viola Concerto (Serly version) Ravel <i>Daphnis et Chloé</i> , suite Nos. 1 & 2 Debussy <i>La mer</i> , three symphonic sketches	Ordinary Youth S 8,900 S 4,000 A 7,400 A 3,500 B 5,800 B 2,800 C 4,700 C 2,100 D 3,700 D 1,500
		January 25 (Wed) 7:00pm 26 (Thu) 7:00pm	Tugan Sokhiev, conductor Amihai Grosz, viola	
		Suntory Hall		
2023 01	C	Concert No. 1975	Rakhmaninov <i>The Rock</i> , fantasy, Op. 7 Tchaikovsky Symphony No. 1 G Minor Op. 13, <i>Winter Dreams</i>	Ordinary Youth S 7,400 S 3,500 A 6,500 A 3,000 B 5,200 B 2,400 C 4,200 C 1,900 D 3,200 D 1,400 E 1,600 E 800
		January 20 (Fri) 7:30pm 21 (Sat) 2:00pm	Tugan Sokhiev, conductor	
		NHK Hall		
2023 02	A	Concert No. 1977	Hisatada Otaka Cello Concerto A Minor Op. 20 Panufnik <i>Katyń Epitaph</i> Lutosławski Concerto for Orchestra	Ordinary Youth S 8,900 S 4,000 A 7,400 A 3,500 B 5,800 B 2,800 C 4,700 C 2,100 D 3,700 D 1,500 E 2,000 E 1,000
		February 4 (Sat) 6:00pm 5 (Sun) 2:00pm	Tadaaki Otaka, conductor Dai Miyata, cello	
		NHK Hall		
2023 02	B	Concert No. 1979	Dvořák <i>Hussite Overture</i> , Op. 67 Szymanowski Symphony No. 4 Op. 60, <i>Symphonie concertante</i> * Brahms Symphony No. 4 E Minor Op. 98	Ordinary Youth S 8,900 S 4,000 A 7,400 A 3,500 B 5,800 B 2,800 C 4,700 C 2,100 D 3,700 D 1,500
		February 15 (Wed) 7:00pm 16 (Thu) 7:00pm	Jakub Hruša, conductor Piotr Anderszewski, piano* Sun. 19 February The Subscription Concert Series in Aichi Prefectural Art Theater	
		Suntory Hall		
2023 02	C	Concert No. 1978	Bernstein Symphonic Dances from <i>West Side Story</i> Rakhmaninov Symphonic Dances Op. 45	Ordinary Youth S 7,400 S 3,500 A 6,500 A 3,000 B 5,200 B 2,400 C 4,200 C 1,900 D 3,200 D 1,400 E 1,600 E 800
		February 10 (Fri) 7:30pm 11 (Sat) 2:00pm	Jakub Hruša, conductor	
		NHK Hall		
2023 04	A	Concert No. 1980	R. Strauss Symphonic Fragments from <i>Josephs Legende</i> R. Strauss <i>An Alpine Symphony</i> Op. 64	Ordinary Youth S 9,800 S 4,500 A 8,400 A 4,000 B 6,700 B 3,300 C 5,400 C 2,500 D 4,400 D 1,800 E 2,800 E 1,400
		April 15 (Sat) 6:00pm 16 (Sun) 2:00pm	Paavo Järvi, conductor	
		NHK Hall		
2023 04	B	Concert No. 1982	Sibelius Symphony No. 4 A Minor Op. 63 Rakhmaninov Rhapsody on a Theme of Paganini Op. 43* Tchaikovsky <i>Francesca da Rimini</i> , Symphonic fantasy after Dante, Op. 32	Ordinary Youth S 9,800 S 4,500 A 8,400 A 4,000 B 6,700 B 3,300 C 5,400 C 2,500 D 4,400 D 1,800
		April 26 (Wed) 7:00pm 27 (Thu) 7:00pm	Paavo Järvi, conductor Marie-Ange Nguci, piano*	
		Suntory Hall		
2023 04	C	Concert No. 1981	Roussel Sinfonietta for String Orchestra Op. 52 Poulenc Sinfonietta Ibert Divertissement for Chamber Orchestra	Ordinary Youth S 7,400 S 3,500 A 6,500 A 3,000 B 5,200 B 2,400 C 4,200 C 1,900 D 3,200 D 1,400 E 1,600 E 800
		April 21 (Fri) 7:30pm 22 (Sat) 2:00pm	Paavo Järvi, conductor	
		NHK Hall		

Program C

- Concerts will have a duration of 60 to 80 minutes without an interval.
- Pre-concert chamber music performance by the NHK Symphony Orchestra members will be held on stage (from 6:45pm on 1st day and from 1:15pm on 2nd day).

A **NHK Hall**
Sat. 6:00pm (doors open at 5:00pm)
Sun. 2:00pm (doors open at 1:00pm)

B **Suntory Hall**
Wed. 7:00pm (doors open at 6:20pm)
Thu. 7:00pm (doors open at 6:20pm)

C **NHK Hall**
Fri. 7:30pm (doors open at 6:30pm)
Sat. 2:00pm (doors open at 1:00pm)

2023
05

A Concert No. **1983**
May
13 (Sat) 6:00pm
14 (Sun) 2:00pm
NHK Hall

Rakhmaninov Songs Op. 34 – *The Raising of Lazarus* (arr. Shimono),
Vocalise
Gubaidulina *Offertorium**
Dvořák Symphony No. 7 D Minor Op. 70
Tatsuya Shimono, conductor
Baiba Skride, violin*

Ordinary	Youth
S 8,900	S 4,000
A 7,400	A 3,500
B 5,800	B 2,800
C 4,700	C 2,100
D 3,700	D 1,500
E 2,000	E 1,000

B Concert No. **1985**
May
24 (Wed) 7:00pm
25 (Thu) 7:00pm
Suntory Hall

Haydn Symphony No. 82 C Major Hob. I-82, *The Bear*
Mozart Horn Concerto No. 3 E-flat Major K. 447
Beethoven Symphony No. 6 F Major Op. 68, *Pastoral*
Fabio Luisi, conductor
Nobuaki Fukukawa, horn

Ordinary	Youth
S 9,800	S 4,500
A 8,400	A 4,000
B 6,700	B 3,300
C 5,400	C 2,500
D 4,400	D 1,800

C Concert No. **1984**
May
19 (Fri) 7:30pm
20 (Sat) 2:00pm
NHK Hall

Saint-Saëns Piano Concerto No. 5 F Major Op. 103, *The Egyptian*
Franck Symphony D Minor
Fabio Luisi, conductor
Pascal Rogé, piano

Ordinary	Youth
S 7,400	S 3,500
A 6,500	A 3,000
B 5,200	B 2,400
C 4,200	C 1,900
D 3,200	D 1,400
E 1,600	E 800

2023
06

A Concert No. **1986**
June
10 (Sat) 6:00pm
11 (Sun) 2:00pm
NHK Hall

Prokofiev *The Love for Three Oranges* Op. 33bis, symphonic suite
Prokofiev Piano Concerto No. 2 G Minor Op. 16
Casella Symphonic Fragments from *La donna serpente* [Japan Première]
Gianandrea Noseda, conductor
Behzod Abduraimov, piano*
*Changed from initially scheduled.

Ordinary	Youth
S 8,900	S 4,000
A 7,400	A 3,500
B 5,800	B 2,800
C 4,700	C 2,100
D 3,700	D 1,500
E 2,000	E 1,000

B Concert No. **1988**
June
21 (Wed) 7:00pm
22 (Thu) 7:00pm
Suntory Hall

Bach / Respighi *Three Chorales*
Respighi *Concerto gregoriano**
Rakhmaninov Symphony No. 1 D Minor Op. 13
Gianandrea Noseda, conductor
Sayaka Shoji, violin*

Ordinary	Youth
S 8,900	S 4,000
A 7,400	A 3,500
B 5,800	B 2,800
C 4,700	C 2,100
D 3,700	D 1,500

C Concert No. **1987**
June
16 (Fri) 7:30pm
17 (Sat) 2:00pm
NHK Hall

Shostakovich Symphony No. 8 C Minor Op. 65
Gianandrea Noseda, conductor

Ordinary	Youth
S 7,400	S 3,500
A 6,500	A 3,000
B 5,200	B 2,400
C 4,200	C 1,900
D 3,200	D 1,400
E 1,600	E 800

(consumption tax included)

All performers and programs are subject to change or cancellation depending on the circumstances.

The Subscription Concerts Program 2023–24

	A	B	C
	NHK Hall [Sat] 6:00pm [Sun] 2:00pm	Suntory Hall [Wed] 7:00pm [Thu] 7:00pm	NHK Hall [Fri] 7:30pm [Sat] 2:00pm
2023 09	9/9(Sat), 10(Sun) Fabio Luisi	9/20(Wed), 21(Thu) Ton Koopman	9/15(Fri), 16(Sat) Fabio Luisi
2023 10	10/14(Sat), 15(Sun) Herbert Blomstedt	10/25(Wed), 26(Thu) Herbert Blomstedt	10/20(Fri), 21(Sat) Herbert Blomstedt
2023 11	11/25(Sat), 26(Sun) Vladimir Fedoseyev	11/15(Wed), 16(Thu) Jukka-Pekka Saraste	11/10(Fri), 11(Sat) Gergely Madaras
2023 12	12/16(Sat), 17(Sun) The 2000th Subscription Concerts Fabio Luisi	12/6(Wed), 7(Thu) Fabio Luisi	12/1(Fri), 2(Sat) Fabio Luisi
2024 01	1/13(Sat), 14(Sun) Tugan Sokhiev	1/24(Wed), 25(Thu) Tugan Sokhiev	1/19(Fri), 20(Sat) Tugan Sokhiev
2024 02	2/3(Sat), 4(Sun) Michiyoshi Inoue	2/14(Wed), 15(Thu) Pablo Heras-Casado	2/9(Fri), 10(Sat) Eiji Oue
2024 04	4/13(Sat), 14(Sun) Marek Janowski	4/24(Wed), 25(Thu) Christoph Eschenbach	4/19(Fri), 20(Sat) Christoph Eschenbach
2024 05	5/11(Sat), 12(Sun) Fabio Luisi	5/22(Wed), 23(Thu) Fabio Luisi	5/17(Fri), 18(Sat) Fabio Luisi
2024 06	6/8(Sat), 9(Sun) Keitaro Harada	6/19(Wed), 20(Thu) Masato Suzuki	6/14(Fri), 15(Sat) Nodoka Okisawa

All programs subject to change.

Program C	<ul style="list-style-type: none"> - Concerts will have a duration of 60 to 80 minutes without an interval. - Pre-concert chamber music performance by the NHK Symphony Orchestra members will be held on stage (from 6:45pm on 1st day and from 1:15pm on 2nd day).
------------------	--

ともに創る未来へ。- Challenge SEITOKU -

かけがえない学生時代、思いきり成長したい。

培った力を、誰かの幸せのために社会で役立てたい。

その意欲を、変化が加速する新時代に活躍する力へ。

自由で、多様で、限らない、学びの世界で学問しよう。

いまの自分を超越る挑戦で、新しい価値を創る力を。

「新しい価値を創造する」学際的なプログラム

Field Linkage (フィールドリンケージ)

学部・学科を超えた学際的な学びや、社会との連携によるプログラムが始動。
多面的・多角的な視点や問題解決能力を養い、新たな価値を創造する力を
育みます。

新時代に生きるリーダーシップを備え、新しい価値を創造し提案できる女性へ

Business Field Linkage (ビジネスフィールドリンケージ)

高度な専門性を実社会で活かすために、ビジネスの最前線やDX・AIの活用を
実践的に学ぶプログラムが本格始動。
先見の視点とスキル、協働的リーダーシップを発揮し、課題解決へと導く、
新時代の女性リーダーを育成します。

2021・2022 実就職率 全国女子大学ランキング



(97.4% 2022年3月卒業生)
※卒業生500人以上の女子大実就職率
2022年大学通信調べ



自立するチカラをはぐくむ女性総合大学。

聖徳大学

聖徳大学短期大学部

〒271-8555 千葉県松戸市岩瀬550 TEL.047-365-1111(大代表)
<https://www.seitoku-u.ac.jp/>

聖徳大学
音楽学部(女子)

聖徳大学大学院
音楽文化研究科
[博士前期・後期課程](共学)

聖徳大学大学院 聖徳大学教職大学院 聖徳大学 聖徳大学短期大学部 聖徳大学幼児教育専門学校
光英 VERITAS 高等学校 聖徳大学附属取手聖徳女子高等学校 光英 VERITAS 中学校
聖徳大学附属取手聖徳女子中学校 聖徳大学附属小学校 聖徳大学三田幼稚園 聖徳大学八王子幼稚園
聖徳大学多摩幼稚園 聖徳大学附属幼稚園 聖徳大学附属第二幼稚園 聖徳大学附属成田幼稚園
聖徳大学附属浦安幼稚園 聖徳大学オープン・アカデミー (SOA)

掌のなかの福探し



骨董・古美術 月刊誌「目之眼」

2023年1月号 | 発売中

うさぎの文様

連載 潮田洋一郎 近衛忠大 原研哉 ほか

波兎蒔絵旅櫛笥 江戸・17世紀
東京国立博物館蔵
出典: Colbase (<https://colbase.nich.go.jp>)

2月号 | 1月16日発売
特集 木地盆 数奇の結界

「目之眼」最新号 WEB 無料公開中
menomeonline.com
毎月15日発売 1,650円(税込)



良い音と暮らす。



生活の中に当たり前音楽がある毎日です。
だから、どうせなら良い音と暮らして欲しい。
デジタルとかアナログとか、そんなことでは
なくて、好きな音楽を好きなように、ゆったり
とした時間の中で楽しむ。
そんな贅沢な時間をオーディオとともに。



AP-701
ステレオパワーアンプ



UD-701N
USB DAC/ネットワークプレーヤー

TEAC

ティアックは1953年創業の日本のオーディオブランドです。



東京春祭
ワーグナー・シリーズ vol.14

《ニュルンベルクの マイスタージンガー》

(演奏会形式／字幕付)

指揮 マレク・ヤノフスキ

©Felix Broede

東京・春・音楽祭 2023
SPRING FESTIVAL IN TOKYO 2023

4.6(木) | 4.9(日)

15:00開演 全3幕 上演時間：約5時間30分
(休憩2回含む)

東京文化会館 大ホール

チケット発売中

Ticket

S ¥26,000 A ¥21,500 B ¥17,500 C ¥14,000

D ¥11,000 E ¥8,000 U-25 ¥3,000

U-25は2月16日(木)12:00発売 (※東京・春・音楽祭公式サイトのみで取扱い)

ハンス・ゼックス	エギルス・シリンス
ボクナー／夜警	アンドレアス・パウアー・カナバス
フオーゲルゲザンク	木下紀章
ナハティガル	小林啓倫
バックメッサー	アドリアン・エレト
コートナー	ヨーゼフ・ワーグナー
ツオルン	大槻孝志
アイスリンガー	下村将太
モーザー	高梨英次郎
オルテル	山田大智
シュヴァルツ	金子慧一
フォルツ	後藤春馬
ヴァルター	デイヴィッド・バット・フィリップ
ダフィット	ダニエル・ペーレ
エファ	ヨハンニ・フォン・オオストラム
マグダレーネ	カトリン・ヴンドザム

管弦楽	NHK 交響楽団
合唱	東京オペラシンガーズ
合唱指揮	エベルハルト・フリードリヒ
音楽コーチ	西口彰浩
	トーマス・ラウスマン

主催：東京・春・音楽祭実行委員会 共催：NHK交響楽団 後援：ドイツ連邦共和国大使館／日本ワーグナー協会

【チケットの申込み】



東京・春・音楽祭
オンライン・チケットサービス

<https://www.tokyo-harusai.com/>

(座席選択可・登録無料)



東京文化会館チケットサービス
03-5685-0650



N響ガイド
03-5793-8161

お問合せ 東京・春・音楽祭サポートデスク 03-6221-2016 (営業時間：月・水・金 10:00-15:00)

脱炭素の道へ。 水素とLPガスが加速する。



2050年、温暖化ガス排出実質ゼロ社会の実現を目指して。

イワタニはLPガス・**Maruigas**の全国330万世帯以上の販売ネットワークを活かし、脱炭素の主役となる水素を暮らしと産業にお届けする準備を進めています。

さらに、環境への負荷を減らすために、水素やアンモニアを混合した低炭素なLPガスの開発をはじめ、廃プラスチックやバイオガス由来の水素やLPガス製造、新しいLPガス合成技術などを推進。

私たちは、水素とLPガスで確かな答えを持つ

クリーンエネルギーのトップランナーとして走り続けます。

水素&LPガスシェアNo.1*

*国内における販売シェア(ただし、水素はオンサイト・バイピングを除く。2022年5月現在、自社調べ)

Iwatani
岩谷産業株式会社